

令和5年度港区保育の質の向上のための研究プロジェクト報告書

子どもが主体的に遊べる 保育環境を考える



はじめに

令和4年度に立ち上げた「保育の質向上のための研究プロジェクト」における保育の実践研究の2年目は、「子どもが主体的に遊ぶための保育環境を考える」をテーマとし、子ども一人ひとりの生活や遊びを尊重する保育環境の研究に取り組みました。

令和5年度は、区立保育園と私立保育園の保育士が一体となって、日々の保育から持ち寄った事例や課題について検討・分析し、環境を創意工夫することで子どもの興味や動きがどのように変化するかなど、自らの保育施設で検証する実践研究を重ねました。

研究を通じて、日頃の保育の中で小さな工夫や改善から子どもの興味や遊び方が変わり子どもの笑顔を実感し、保育士の意識の変化にもつながったことは、貴重な学びとなり、それぞれの園でメンバーを中心に保育の質の向上が図られていったことと思います。

令和5年4月に、こども基本法が施行され、子どもの最善の利益を第一に考える保育施設では、今後、これまで以上に、どのような保育が行われているのか保護者のみならず、在宅で子育てしている家庭など地域全体からの関心も高まっています。

区は、今年度本研究と併せて、保育の質向上を目指すガイドラインとして区独自の「保育の質向上に向けたガイドライン 港区保育の実践事例集」の策定に取り組み、令和6年3月末に完成します。ぜひ、乳幼児の保育に携わるすべての保育施設、保育士においては、本報告書と併せて、日頃の保育の実践への糸口として活用していただき、未来を担う子どもたちの健やかな育ちを支え、目指す子どもたちの姿を実現する質の高い保育に取り組んでいくことを期待しております。

結びに、研究プロジェクトのアドバイザーとしてきめ細やかに助言、指導をしてくださいました山梨県立大学名誉教授、聖徳大学名誉教授、阿部真美子先生に厚く御礼申し上げます。

令和6年3月
子ども家庭支援部長 中島 博子

目 次

| | | |
|---|-------------------------|-------|
| 1 | 保育の質の向上のための研究プロジェクトについて | 3 |
| 2 | 令和5年度 本研究のテーマ | 3 |
| 3 | 研究の方法 | 3 |
| 4 | 研究計画 | 4 |
| 5 | 各事例研究の報告 | |
| | 1 グループ | 5-12 |
| | 2 グループ | 13-22 |
| | 3 グループ | 23-32 |
| | 4 グループ | 33-42 |
| | 5 グループ | 43-52 |
| | 6 グループ | 53-60 |
| | 7 グループ | 61-68 |
| 6 | ここがポイント！環境設定 | 69 |
| 7 | 資料 | 70 |
| 8 | プロジェクト 参加者の感想から | 71 |
| 9 | おわりに 令和5(2023)年度の研究について | 72-73 |

1 保育の質の向上のための研究プロジェクトについて

区は、平成31年4月には待機児童ゼロを達成し、以降、各年度4月時点での待機児童ゼロを継続している。さらなる質の高い保育を目指した「保育士向けの研修の充実」の取組の1つとして、令和4年度5月から保育の実践的な力を身につけ保育の質の向上を目指す研究活動に取り組み始めた。令和5年度は区立保育園、私立認可保育園、港区保育室の中堅職員（保育士勤務歴3年から15年）25名で研究を進めることとなった。

2 令和5年度 本研究のテーマ

保育を行う中で課題となっていることは何か、興味のあるテーマは何か、ということについて事前に実施したアンケート結果をもとに、令和5年度は「環境を見直す」ということを大テーマに掲げ、研究を進めることとした。

令和5年4月にこども基本法が施行され、基本理念の1つとして「すべてのこどもは大切にされ、基本的人権が守られること」が明確にされた。本研究でも改めて子ども一人一人を尊重した保育を行うことの重要性に着目し、「環境を見直す」というテーマに基づいて、メンバー自身または所属クラスの保育から事例を抽出し、保育環境が子どもの成長発達にどのような影響を与えているのか、保育士の意識や保育の質は変わってくるのか等を、実践と検証を繰り返して研究を進めた。

3 研究の方法

研究グループメンバー25名を7グループに分け、各自の事例についてグループ内で意見交換を行うこととした。

① 事例収集期間および事例数

令和5年5月から12月 1人5事例 合計125事例

（本報告書p5以降の事例報告は、このうち7月から12月の事例（1人4事例、計100事例）報告することとした）

② 研究方法

写真や見取り図等を使用して、各々実施した保育環境の取組の記録をとった。（記録用紙はp70表1参照）研究プロジェクト内で取組内容の報告、意見交換、課題の確認を行い、それに基づき更なる保育環境の見直しに取り組んだ。また、意見交換の際は付箋に気づきを書き出して共有する「付箋ワーク」（p70図1参照）も実施した。

③ 研究対象年齢

各グループの事例研究対象年齢は、次のとおりである。

| グループ | 対象クラス | グループ | 対象クラス |
|-------|----------|-------|----------|
| 1グループ | 0歳クラス | 5グループ | 3歳クラス |
| 2グループ | 0歳クラス | 6グループ | 4歳クラス |
| 3グループ | 1, 2歳クラス | 7グループ | 4, 5歳クラス |
| 4グループ | 2歳クラス | | |

4 研究計画

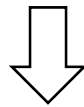
令和5年5月から令和6年2月まで計8回のプロジェクトで事例報告・意見交換を経て、本報告書を取りまとめた。

| | 日程 | 研究の計画及び内容 |
|-----|---------------|----------------------------------------------------|
| 第1回 | 令和5年 5月11日 | 研究テーマ決定、確認 研究の目的の設定、研究の方法の確認 各園で事例収集（5月～11月） |
| 第2回 | 6月15日 | 各事例報告、意見交換 |
| 第3回 | 7月13日 | 各事例報告、意見交換 |
| 第4回 | 9月13日 | 各事例報告、意見交換 |
| 第5回 | 11月15日 | 各事例報告、意見交換 |
| 第6回 | 12月13日 | 各事例報告、意見交換 事例研究を振り返って |
| 第7回 | 令和6年 1月10日 | 研究を振り返って（まとめ） 報告書作成作業 |
| 第8回 | 2月2日 | 研究を振り返って（まとめ） 報告書作成作業 |

1 グループ

どのような環境設定にしたい？

- ・ 0歳児でも自分から興味を持って遊び込めるようにしたい。
- ・ 月齢差がある中でも、過ごしやすい環境をつくりたい。

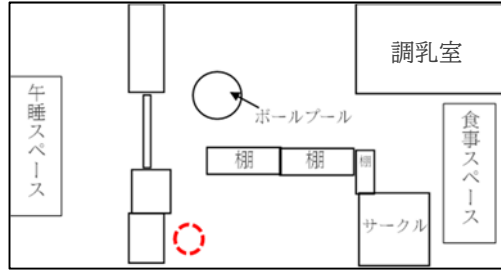


テーマ

0歳児の発達と興味に合わせた
環境づくり

実践1
6~7月

【子どもの姿】・伝い歩き、はいはい、ずりばいで移動し、つかまり立ちをする。
・音が鳴る玩具や片手に持てる玩具を振ったり、投げたりする。
【保育環境改善の工夫】個々の発達に合わせた玩具の配置。



ずりばい、はいはい、つかまり立ちでは目線が違うため、上段と下段で同じ玩具を設置。

ボールを掴み、口に咥える、投げる動作をしていたため、ボールプールを設置。感触や音で刺激を与えられるようにした。

★子どもの変化と保育のポイント

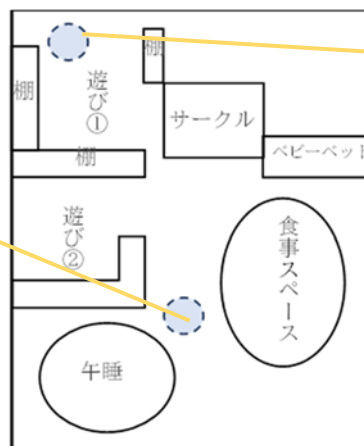
- ◆ 玩具を分散させたことで、個々が興味を持った玩具を手にする様子が見られた。
- ◆ スペースを広げた事で子ども達が自由に行き来し探索を楽しむことができたと感じる。

【次の課題】

午睡と食事のスペースに遊びスペースがあり、食事と睡眠時の動線が悪いため改善したい。

【子どもの姿】伝い歩きでの探索をするため、遊びスペースに限らず、室内を動きたい様子が見られる。
【保育環境改善の工夫】食事から午睡スペースへの動線を改善。

実践2
7~9月



遊びスペースから食事、午睡スペースへ向かいやすいようにした。

遊びスペースを2つに分け、子どもの興味に合わせて場所を変えて過ごせるようにした。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 保育士の声掛けに反応し、食事や午睡スペースに移動する様子が見られたが、午睡時は移動中に遊びスペースへ行き遊び始めてしまうことがあった。
- ◆ 環境設定を変更した直後は周囲に興味をもって探索する様子が見られたが、同じ玩具のため遊びこむことは少なかった。

【次の課題】

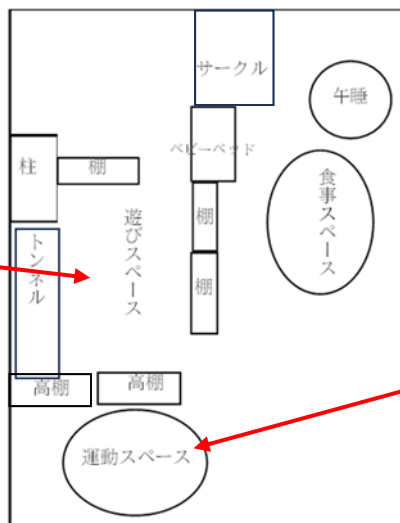
伝い歩きでの探索をするようになったため遊びスペースが狭い。

実践3

10~11月

【子どもの姿】歩行で移動することが増えて活動範囲が広がった。

【保育環境改善の工夫】遊びスペースを広く取るようにした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 歩行以外の動きも取り入れられるようにトンネルを配置。はいはいやつかまり立ちでトンネルの中を行き来していた。
- ◆ スペースが広がったことで子ども同士の接触が減少。保育士も各所へ移動しやすくなり、子ども同士の関わりを傍で見守りやすくなった。

【次の課題】

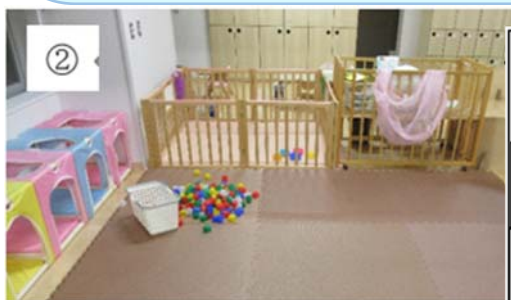
運動スペースのマットを片付け、食事以外ではテーブルと椅子を寄せて、手押し車ができるようにするのはどうか。

【子どもの姿】全員が歩くようになり、スペースを移動することを楽しんでいる。

【保育環境改善の工夫】遊びによってスペースを分け、遊び込める環境作り。

実践4

11~12月



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ ③の空間は運動遊びにも使用し、場所によって遊び分けをして子どもとじっくり遊べる環境を作ることができた。

【次の課題】

ままごとを常設できるような配置を考える。

1 グループ 0歳児クラス 13名(男児8名 女児5名)

実践1

6~7月

【子どもの姿】つかまり立ち、伝い歩きがさかん。玩具で遊ぶ姿もみられる。

【保育環境改善の工夫】自分で玩具を取りに行くことができる・手に取りやすい環境をつくる。



大きい部屋を
棚で3つのスペースに区切った

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ つかまり立ちや伝い歩き、一人で歩く姿がある。
- ◆ 自分で棚から玩具を取り出して遊ぶ姿もある。
- ◆ 棚に設置するとはいはいの子は棚の中の玩具を取り出すことが難しい。

【次の課題】

はいはいや歩行をする子がそれぞれ好きな遊びを選択できるスペースづくりを考える。

【子どもの姿】玩具の位置が保育士によってさまざまに遊びが安定しない。

【保育環境改善の工夫】7月からレイアウトの変更はなし。玩具の位置を固定した。

実践2

7~9月



玩具の写真を貼って設置した。
重さのあるものは下の段に置いた。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 玩具の位置を固定したことで、自分で取り出している。高月齢の子は「ボールどこだっけ？」と声をかけると取りに行く姿がある。
- ◆ いつも同じところに置くことで子どもも覚えて取り出す、片付ける習慣が少しずつできていくことがわかった。

【次の課題】

手を離して一人で歩く子が増えてきた。玩具を整えつつ、歩行がしやすい設定に変えていく。

実践3

10～11月

【子どもの姿】歩行する子が増えている。

【保育環境改善の工夫】歩行が十分に楽しめるよう、棚の配置を変える。



棚を真ん中に移動して歩きやすくした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 引き玩具を引っ張ったり一人で歩こうとしたりする姿がある。
- ◆ 部屋の真ん中に棚を設置したことで移動しやすくなり、混雑する状況が減った。

【次の課題】

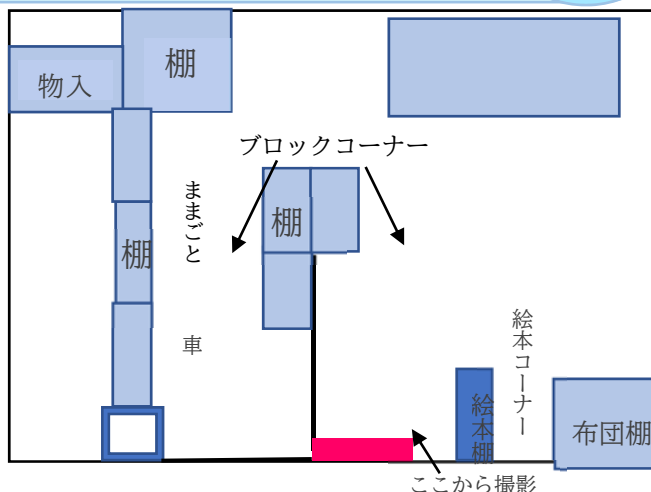
玩具を持ち歩く姿が増える。
運動スペースを作りながらも
落ち着いて遊べるコーナーの
設定を考える。

【子どもの姿】歩くことが楽しく、遊ぶ場所が定まらない。

【保育環境改善の工夫】落ち着いて遊ぶことができるコーナーをつくる。

実践4

11～12月



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 歩いて遊ぶ子、保育士と一緒に絵本を読みたい子、ブロックで遊ぶ子が混在してしまっている。
- ◆ 絵本は絵本コーナーをつくり、ブロックは隣り合わないよう反対側の棚に別の種類を設定した。

【次の課題】

ままごとがコーナーにできず、
いろいろなところへ皿や食材の
玩具が行ってしまう。

実践1

6~7月

【子どもの姿】高月齢児は手先が器用になってきている。

【保育環境改善の工夫】子どもがーか所に集まらないように玩具を移動した。



玩具がーか所に集中していたが、玩具を移動し、マットに座って遊べるスペースを確保した。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 手先を少しずつ使えるようになり、ボタンを押して遊ぶ玩具を好む児が増えてきた。
- ◆ 空いていたスペースを活用し、座って手先を使って遊べるようにすることでじっくりと遊べていた。

【次の課題】

手先を使ってじっくりと遊べる玩具を用意する。

【子どもの姿】玩具以外のものに興味が出始めている。

【保育環境改善の工夫】視診台の棚も玩具となるような設定をした。

実践2

7~9月

カーテンをめくると...



イラストを発見!

棚をドアに見立てて遊ぶことも。



引っ張って遊ぶ玩具に興味が出てきた

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 手先が器用になってきたことで、引く力が強くなってきた。
→段ボールを補強しドアのようにしてみる。中に玩具を入れる。
- ◆ もともとあった玩具以外にも興味を持ち始めたり、いたずらする楽しさを感じられるようになった点では、子どもの興味を無理なく止めずに遊べる設定ができた

【次の課題】

新入児が入るので、落ち着いて遊べる環境作りをする。

実践3

6~7月

【子どもの姿】新入児が増えたため、在園児と新入児に分かれて過ごし始める。

【保育環境改善の工夫】手先の遊びだけでなく、五感を楽しめる玩具を作った。

匂いを楽しむ玩具



石鹸やお茶の葉、蚊取り線香などをケースに入れた。

座位・つかまり立ち、どちらの姿勢でも子どもの目線にちょうど良くなった。

つかまり立ちでも楽しめる道路



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ はじめは持ってみたり、振ってみるだけだったが、保育士が匂いを嗅ぐことを見せたり伝えているうちに鼻を近づけて匂いを嗅ぐ仕草をするようになった。
- ◆ 低い棚は、つかまり立ちから足を上げて登ってみようとする子もいるが、車を走らせるようにすることで、遊びにつながられた。

【次の課題】

バッグを持ち歩く女児が増えた。ままごとなど簡単なコーナーあそびを取り入れてみる。

【子どもの姿】月齢で2クラスに分かれて過ごすようになる。

【保育環境改善の工夫】環境を大きく変更せず、今あるもので工夫する

実践4

11~12月



乳児用柵木を動かして、いろいろな遊びスペースを作った。

ボールプール用のボール、かごを使ってボールを出し入れする手作り玩具を作った。



常設せず、遅番など特定の時間に使用

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 低月齢児もつかまり立ちや伝い歩きをする子が増えているので、遊びに合わせて動かしている。
- ◆ ボールプールで使用する時にはあちこちに転がることが多いが、新しい遊び方になると、じっくりと遊べていた。

【次の課題】

高月齢児はままごとや机上での遊びを取り入れていく。

考察：研究を振りかえって

■ 環境を構成していく中で大事にしたこと

- ・ 子どもの今の興味にあった環境を作る。
- ・ 安全に遊ぶことができる配置の設定。
- ・ 発達に合っているか。

■ 事例研究をしていく中で気づいたこと

<保育士>

- ・ 興味を持ったことをどのように遊びに繋げていくかを意識するようになった。
- ・ 成長のスピードに合わせて環境を変えていくことは難しい。
- ・ 保育士の理想と実際の姿は異なる。

<子ども>

- ・ 環境が変わるたびに遊び方の変化が見られた。
- ・ 玩具の場所を固定することで、自分から玩具を取りに行き、片付ける姿が見られた。

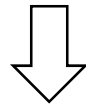
■ これからの保育で活用したい内容

- ・ 手作り玩具を取り入れ、発達に合わせた遊びができるようにしていく。
- ・ 身近な素材を用いて環境を工夫する。
- ・ スペースを活用する。
(玩具棚を中心に置き、つかまり立ちや伝い歩きなどの活動ができるようにする)
- ・ 静と動の遊びによって空間を分ける。
- ・ 子どもが生活しやすい環境設定をする。

2 グループ

どのような環境設定にしたい？

- ・子ども達が主体的に、自らが遊びを見つけることができる環境を作りたい。
- ・月齢差、発達段階の違いが大きいため、それぞれに合った遊びができる環境にしたい。
- ・月齢差が大きいこともあり、スペースを区切って環境を整えることで発達に合った経験が出来るようにしたい。
- ・保育室全体を変えると子どもも保育士も負担が大きい。スペースを区切り小さな工夫から環境を整えていく。



テーマ

0歳児が探索できるスペース作り

実践1

6~7月

【子どもの姿】高月齢児はつかまり立ちや伝い歩きをしているが、はいはいが中心である。
低月齢児は腹ばいで遊び、ずりばいをするようになった子もいる。

【保育環境改善の工夫】座って遊べるスペース、つかまり立ちして遊べるスペースを作った。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 高月齢児は、はいはいをしてゲームBOXまで行き、つかまり立ちをした。低月齢児は、マットの上のスペースで腹ばいや仰向けになって遊んでいる。
- ◆ 月齢によって遊ぶ場所や玩具が違ってくる。月齢に合わせて、部屋&テラス、部屋&廊下など、活動を分ける必要がある。

【次の課題】

めくって遊ぶものや、ウォーターマットなどを設置したり、トンネルや山など身体を使って遊べる環境を設定していく。

【子どもの姿】高月齢児が歩行、他の児はつかまり立ちをしている。

【保育環境改善の工夫】室内でも体を動かして遊べるようにした。

実践2

7~9月



以前はこのスペースのみだった。



他園の事例を参考に
ウォーターマットも設置



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 午睡室全面にマットを敷きアスレチックコーナーを設置することでたくさん体を動かして遊べた。
- ◆ ウォーターマットは、初めは保育士が設定していたが、棚に設置すると自分たちで出して遊ぶようになった。
- ◆ 初めは山が登れなかった児も、友だちの動きを見て毎日遊んでいく中で登ることができるようになってきた。

【次の課題】

高月齢児が楽しめる遊びを考
えていく。

(例：お風呂場の活用等)

実践3

10~11月

【子どもの姿】高月齢児は動きが活発になってきている。

【保育環境改善の工夫】空いている部屋（お風呂場）を遊び場にした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 大きな斜面板も登れるようになった。
斜面をはいはいで登り、お腹で滑って降りることを楽しんでいる。
- ◆ 物置だったお風呂場も遊びのスペースになる。
- ◆ 部屋だけではなく体を動かして遊べるスペースがあることで気分転換にもなっている。
- ◆ 大きな斜面板は危険だと思っていたが、想像以上に上手に登れている。
- ◆ ケガには十分に注意しながら見守る必要はあるが、はいはいで登ることで足腰も強くなっているように感じる。

【次の課題】

- ・ 保育室内の環境を変える（指先の遊びの充実）。
- ・ 数カ月経って、遊びがどのように変化をしたのかについても検証する。

【子どもの姿】新入児が入園して人数も増えた。棚の下に入りたがる子がいる。

【保育環境改善の工夫】棚の下に子どもが入って遊べるスペースを作った。

実践4

11~12月

動いて遊ぶスペースを広げ
ボールプールを設置



棚の下に、入って遊べる
スペースを作った



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 設置したボールプールでよく遊んでいる。
- ◆ 棚の下に入ろうとする子が多かったので、入って遊べるスペースを作ると遊び場になった。
- ◆ 大きくレイアウトの変更は行っていないが、少人数で分かれて遊んだり、子ども達の発達に合わせて玩具や室内の環境を変えたりすることで、落ち着いて遊べている。
- ◆ 今後も部屋の空きスペースや壁を使って工夫し、遊び場に変えていきたいと思う。

【次の課題】

子どもの様子や動き、発達に合わせて環境を変えていく必要がある。

実践1

6~7月

【子どもの姿】つかまり立ち、伝い歩きをし始めた子がいる。

【保育環境改善の工夫】つかまり立ちをする場所の設置。坂道をつかった全身運動の充実。



牛乳パックで作成した坂道。

つかまり立ちができるように作成したもの。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ つかまり立ちができる場所ができ、立って過ごす時間が長くなっている。
- ◆ 両側から立って、お互い顔に見合わせて相手を認識している。
- ◆ 室内でも段差や坂道をのぼり、体力がついてきている。
- ◆ 部屋の真ん中に設置したことで活動範囲が広まり、探索活動が増えた。

【次の課題】

保育士がやりとりの仲立ちをしていく必要がある。
玩具が増えた分片付けができず部屋に散乱している。

【子どもの姿】箱に物を詰めている姿が見られる。

【保育環境改善の工夫】指先を使った遊びの充実。

実践2

7~9月



ファスナー付きビニール袋にスポンジ・ポンポンを入れたもの、人工芝、ペットボトルキャップ、ビー玉（取れないように固定）等、触感が楽しめる遊具を作成。



身近な素材ではあるが、普段は遊べない開閉できる蓋なども指先遊びに活用する。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 自然に触れる事が苦手だった子は、人工芝に慣れていくことで戸外でも遊ぶことができた。
- ◆ スポンジ、ボタンを押すなど、触感を手や指で楽しんでいた。
- ◆ 触感遊びに集中して楽しむ姿が見られた。
- ◆ 指先を使って自然物に触れ、戸外の探索活動が広がった。

【次の課題】

友だちと一緒に楽しんだりやりとりを楽しんだりできるようなアイテムを考え、遊びを深めていく。

実践3

10～11月

【子どもの姿】歩行が安定している。伝い歩きの子も活発に動いている。

【保育環境改善の工夫】室内でも十分に体を動かして遊べる環境作り。



部屋のレイアウトを変更し、広く室内を使えるようにした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ たくさん身体を動かして遊べるようになり、子どもが活動的になった。
- ◆ 一直線上の道ができたことにより、かけっこや物陰に隠れて「いないいないばあ」を楽しむ子がいる。
- ◆ 部屋を2つに分けたことで、午睡にもすぐに移ることができるようになった。
- ◆ スペースがたくさんでき、自分で移動し落ち着ける場が出来たことで怪我やトラブルが減った。

【次の課題】

今後入園する子どもの月齢が小さい場合は、互いに体を動かせる環境を考えていく。

【子どもの姿】低月齢児が入園し、活動の差が大きい。

【保育環境改善の工夫】月齢差がある子ども達が安全に体を動かせる環境づくり。

実践4

11～12月

部屋を二分化し、柵で仕切った中にベビーベッドを設置



絵本コーナーを移動し、フリースペースを設定。明るい窓枠に座る場所を設置して落ち着いて読める環境を作った。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ ベビーベッドを覗きに行くなど交流も増えつつ、ワンフロアで見渡しもよくなった。
- ◆ ワンフロア（食事スペースは別）で見渡しが良くなったことで、子どもが他児の存在を認識しやすく、また保育士も子どもの様子を確認しやすく安心して保育ができています。
- ◆ 絵本が好きな子ども達は、保育士が絵本を読もうとすると窓の段差に座って待っている。絵本に集中するようになり、製作等にも興味が出てきた。

【次の課題】

お絵描きや粘土なども好きなため、自分で出し入れができるような設定の工夫を考える。

実践1

6~7月

【子どもの姿】寝返り、はいはい、伝い歩き、歩行 様々な動きの子どもがいる。

園庭が込み合っており、戸外で自然に触れる機会が少ない。

【保育環境改善の工夫】 室内で自然を感じられるスペース作り。



センサーバッグの設置
(ウォーターマット)



造花と布団圧縮袋で作成



6月 あじさいの花びら
室内で季節を感じられた

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 冷たさに気づく、目で追う、はいはいで通る、指で花を摘まもうとするなど、それぞれが様々な遊び方をしていた。
- ◆ 触りたい意欲から、移動運動が活発になっていた。
- ◆ 固定で設定されていたため安心できる場所になっている子もいた。

【次の課題】

つかまり立ち、歩行など移動運動がさらに活発になっている。探索できるスペースを作る。

【子どもの姿】つかまり立ち、歩行で室内を探索する子が増えている。

活発に動きたい子、じっくり遊びたい子と姿が分かれてきている。

【保育環境改善の工夫】 歩行、伝い歩きで探索できるスペース作り

実践2

7~9月



紐通しの玩具を棚につけ、座位やつかまり立ちで遊べるようにした。



(左) つまんで遊べる玩具
(右) 簡単なコイン落とし



いないいないばあ遊び
(破損した絵本・箱と鏡で作成)

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 簡単な遊びとやや難しい遊びを設定した。興味や器用さによって遊びが分かれた。
- ◆ 興味、遊びの場が分散したことで、個々の遊びの保証が出来た。
- ◆ 一か所に混み合わなくなり、転倒やトラブルを防ぎやすくなった。

【次の課題】

低月齢の子どもが入園してくる。遊びの棲み分けができる保育室のレイアウトに変更する。

実践3

10～11月

【子どもの姿】 3か月～1歳6か月の様々な成長段階の子どもが同じ保育室で過ごしている。

【保育環境改善の工夫】 様々な成長段階の子どもが安心して過ごせるスペース作り。

① 3か月の子どものベビーベッド



② 運動コーナー
ずりばい～歩行



①と②のスペースを仕切る
可動式のつかまり立ちの台



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 3か月児はメリーを見て目で探索し、移動運動が活発な他の子ども達は運動コーナーで存分に体を動かして遊ぶなど、遊びの棲み分けができた。
- ◆ パーテーションの数が足りず、ゲームBOXで仕切りの台を作った。ゲームBOXの高さがつかまり立ち、遊びの台にちょうど良かった。

【次の課題】

運動コーナー以外でも、様々な発達段階の子どもの遊びが保証される環境作り。

【子どもの姿】 高月齢、低月齢、4か月児と別れて過ごす。低月齢児は崩す、倒す、投げる遊び、高月齢児は玩具の積み上げ、保育士や友だちとのやり取りを好む。

【保育環境改善の工夫】 一人ひとりの遊びが保証されるスペース作り

実践4

11～12月



低月齢児用玩具



ポットン落とし、シリコン積み木など

高月齢児用玩具



人形、ままごと遊びなど

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 低月齢児と高月齢児で玩具を入れ替えて遊べるようにした。
- ◆ 特に積み木は、月齢・発達差により積みたい子、崩したい子と遊び方が違うため、月齢毎のグループで遊べるようにした。
- ◆ 高月齢児は簡単なままごと遊びを通し、少しずつ子ども同士のやりとりが見られるようになった。

【次の課題】

月齢に応じた発達や興味にあった、机上遊び、手先指先遊びコーナーの充実。

実践1

6~7月

【子どもの姿】高月齢児と低月齢児の動きに合わせ、それぞれが遊べる環境を作る。

【保育環境改善の工夫】動きを分けたコーナーを作る。

<改善前>

保育室を棚で区切り、半分を遊びスペース、半分を食事・午睡スペースとして設定。



<改善後>

つかまり立ち・伝い歩きなど発達にあわせ、棚を移動して区切り方を変更。



静と動の遊び空間と食事・午睡スペースにして分けた。

【動の遊び】

マット山やボールプール等を設定。



【静の遊び】

棚に音の鳴る玩具やマグブロック等を用意。子どもが遊びを選べるようにした。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 棚を移動したことで伝い歩きが出来るスペースが増え、積極的に移動するようになる。
- ◆ 静と動の遊びを分けたことで、遊びに飽きることが減る。
- ◆ 静と動のスペースを分けたことで、落ち着いて過ごせる時間が増えた。

【次の課題】

運動遊びの充実をはかる。

【子どもの姿】高月齢児と低月齢児の子どもの動きに差がある。

【保育環境改善の工夫】運動遊びを充実させ、各月齢の遊び場を作る。

実践2

7~9月

<改善前>



<改善後>



運動遊びを充実させる為、室内でコンビカーやボールプール、ボールプールの淵を歩いてバランスを取りながら歩くなど、様々な活動を行った。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 雨の日でも室内で体を動かせることで、思い思いに体を動かして楽しんでいる様子が見られる。
- ◆ コンビカーを繰り返し遊びに取り入れ楽しむ中で、自分で進むことができるようになる喜びにつながった。
- ◆ 他児に興味を持つきっかけとなり、関わろうとする様子が見られた。
- ◆ 遊びのスペースを分けたことで、その遊びに飽きても別の遊びに切り替えられ、子ども自身が遊びを選べるようになる。

【次の課題】

保育室の中で楽しめる環境作り。

実践3

10～11月

【子どもの姿】 室内遊びの際に高月齢児の子どもが遊び足りない様子が見られる。

【保育環境改善の工夫】 保育室の中で様々な遊べる環境を作る。



遊ぶ月齢や個々の運動発達に合わせて遊びを展開。長椅子2台使って高さの違う山を設定。

保育士がそばで見守りながら危険がないように援助する。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 初めは保育士が援助していたが、何度か繰り返すことで自ら足をあげたり、マットの横を掴むなどして、子どもなりに試行錯誤しながら遊んでいる。
- ◆ 遊びの中で0歳児が試行錯誤出来ることが保育士目線としても学びとなった。
- ◆ この遊びを通して公園の遊具の階段を上り下りできるようになり、遊びは様々な運動にも繋がっていると感じた。

【次の課題】

同じ室内で高月齢児と低月齢児が楽しめる環境作り。

【子どもの姿】 月齢の差が大きく、一緒に遊ぶのは難しい。

【保育環境改善の工夫】 保育室の中で個々遊びが楽しめる環境を作る。

実践4

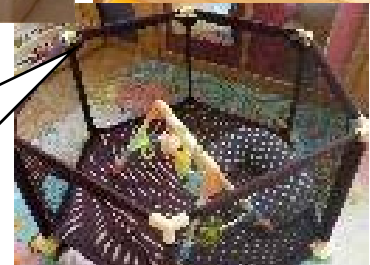
11～12月

<改善前>



低月齢児数が入園で増えた為、高月齢児と低月齢児が分かれて遊べるように設定した。

低月齢児はベビーベッドの中とベビーサークルの中で過ごすようにしている。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 低月齢児はベビーベッドでは孤独感を感じるのか泣く様子があったが、ベビーサークル内では人の存在を感じられるから落ち着いて過ごしていた。
- ◆ 高月齢児はベビージムを家に見立ててままごとをする様子が見られた。
- ◆ 高月齢児は低月齢児が視界に入るところにいると顔を覗かせたり、玩具を渡そうとしたりする様子が見られ、自分より小さな他児に興味を示していた。
- ◆ 他児との関わり方を知るきっかけとなったようだった。

【次の課題】

他児と並行して遊べる空間作り。

考察：研究を振りかえって

◆ 環境を構成していく中で大事にしたこと

- ・ 子どもの発達をとらえる。
- ・ 子どもの興味関心に気づく。
- ・ 子どもが安心安全に遊べるとともに、保育士も安心して見守れるようにした
- ・ 静と動の工夫。
- ・ ねらいをもって保育する。
- ・ “やってみたい” “面白そう” “楽しい” と思える設定。

■ 事例研究をしていく中で気づいたこと

- ・ 小さな工夫でも遊び方も子ども自身も変わる。
- ・ 子どもの興味や発達の変化に気づくことで保育士の学びに繋がる。
- ・ 環境を考えることで、子どもも保育士も主体的になっていった。

・ これからの保育で活用したい内容

<実践>

- ・ 棚の移動やレイアウトを変えるだけでスペースを作ることができ、限られたスペースを活用できる。
- ・ 小さな工夫や少しの変化でも遊び方は変わる。

<計画>

- ・ 環境を見直すことで保育の見直しに繋がり、具体的な保育計画が見えてくる。
- ・ 子どもの発達・興味に合わせた環境づくりを再認識した。
- ・ 子どもが主体的になって過ごすことができるようにする。
- ・ 安全面を見直す。
- ・ 環境を通した保育が必要。

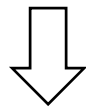
<意見交換から>

- ・ 季節感を取り入れる。
- ・ 手作りでも体を動かして遊べる玩具。
- ・ 一人一人が入れる箱などのスペース作り。

3 グループ

どのような環境設定にしたい？

- ・ 机の配置、限られたスペース、使いづらい場所、遊具の管理など物的、空間的工夫をする。
- ・ “これで遊ぼう”と保育士が用意した玩具で遊ぶのではなく、子どもが自ら遊びを見つけたり選んだりすることのできる環境を作りたい。一人一人がじっくりと遊びこめる環境づくりをしていきたい。
- ・ 子どもたちが自分から触れてみたいと思える感触遊びの環境を用意していきたい。



テーマ

0、1、2歳児が満足できる遊び
の環境づくり

実践1

6~7月

【子どもの姿】月齢差があり、高月齢児と低月齢児では遊び方に違いがある。

【保育環境改善の工夫】コーナーを充実させるとともに玩具の数も見直しをする。

高月齢児と低月齢児で分かれて過ごせるよう、コーナーを作り玩具の見直しをする。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ ままごとにキッチンやシンクを設置すると、料理をしてみたり手を洗ってみたりと、遊びが広がっている。
- ◆ 月齢差があるので、それぞれに合ったコーナーを作り、玩具も見直すことでよく遊べていた。

【次の課題】

体を動かしたい児も発散できるよう工夫をしていく。

【子どもの姿】コーナー遊びをよく楽しんでいる。体を動かしたい児が机に登ろうとしたり、室内を走ったりする姿がある。

【保育環境改善の工夫】室内遊びの際、運動コーナーを作って体をたくさん動かせるようにする。

実践2

7~9月



《巧技台・斜面板》
腕と足の力を使ってよじ登る。

《一本橋》
バランスを取りながら進む。



《トンネル》
四つばいで進む。
体の使い方を教

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 巧技台の高さなど少し難しくすることで、何度もチャレンジする姿が見られた。
- ◆ 難しすぎず、簡単すぎない設定にすることで、飽きずに遊びこむ姿が見られた。

【次の課題】

夕方の時間なども持て余してしまう様子があるので、運動コーナーを常設させてみたい。

実践3

10~11月

【子どもの姿】体を動かすことを楽しんでいる。夕方の時間など、体を動かしたい児が室内を走る姿も見られる。

【保育環境改善の工夫】運動コーナーを常設してみる。



10センチの巧技台に
斜面板をつけた坂道 を設置。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 歩いて斜面の登り降りを楽しんでいる。慣れてくると斜面を走る児もいる。
- ◆ 運動できるスペースを常設することで、体を動かしたい児の気持ちも満たされ、夕方の時間も落ち着いて過ごすことができていた。

【次の課題】

他のコーナーの玩具を持ってきてしまう様子も見られる。

【子どもの姿】ままごとをよく楽しんでいるが、運動コーナーへ持って行ってしまいう様子も見られる。

【保育環境改善の工夫】ままごとコーナーの隣に可動遊具を取り入れる。

実践4

11~12月

お風呂マットをカットし、重ねてテープで止めたもの



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 上に積んでみたり、並べて電車ごっこをしたり、テーブルにしてままごとをしたりと様々な遊び方が見られた。
- ◆ 子どもの発想を大切にしながら、保育士も一緒に遊ぶことでさらに遊びが広がっていた。

【次の課題】

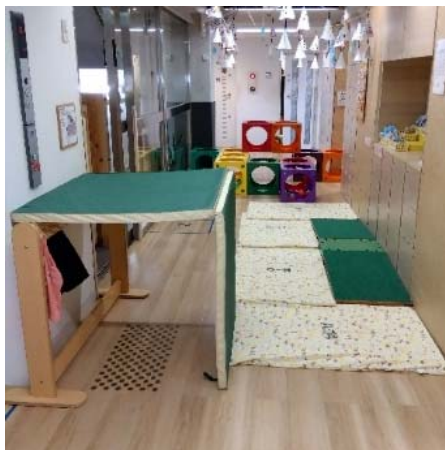
ままごと遊びが広がってきているので、玩具を見直し、さらに充実させていきたい。

実践1

6~7月

【子どもの姿】日中の活動で、保育室内での遊びに飽きてしまう姿がある。

【保育環境改善の工夫】廊下を広く使って、マットのトンネル、巧技台、斜面、ゲームボックスを設定。



ゲームボックスの中にボールプールのボールを入れた

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 新しい発想（設定）を取り入れたことで自分からゲームボックス内を這って進んだり、斜面に挑戦したりと興味を示し遊んでみようとする姿が多く見られた。

【次の課題】

室内での遊びの工夫。

【子どもの姿】高月齢児中心にごっこ遊びを楽しむ姿が見られるようになる。

【保育環境改善の工夫】棚の位置を移動して小部屋を作り、テーブルとイス、ままごとの遊具を設定。

実践2

7~9月



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 保育士と食べる真似やジュースを注ぐ真似をしてやりとりを楽しんでいた。
- ◆ 月齢差や遊び方によっては一つの遊びが中断されてしまうこともあったため、メンバーや人数の工夫が必要だと感じた。

【次の課題】

自分の遊びをじっくりと楽しめる環境を整える。

実践3

10～11月

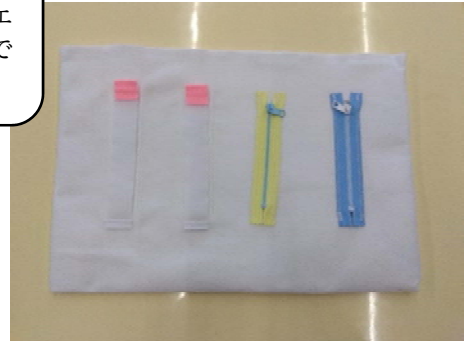
【子どもの姿】全身を使う遊びから、指先遊びへの興味も出てきた。

【保育環境改善の工夫】手作り玩具を用意する。

チェーンリング
落とし
(チェーンリング
を沢山繋ぎ合わせ
て作成)



コイン落とし
(丸い厚紙をフェルト
で挟み込んで
作成)



切り口は丸とコインが入る切り込みの2種類

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 視覚的に鮮やかなもの(色)を選んだが、やはり興味を持ちやすく2種類の遊びを用意したことで10分以上じっくりと遊び込む姿もあった。
- ◆ 数が足りず子ども達の遊びたいという気持ちに追いつけなかった。

【次の課題】

一人一人が十分に楽しめる量、遊びを用意する。

【子どもの姿】ごっこ遊びの中で保育士や他児とのやりとりを楽しむ姿が増える。

【保育環境改善の工夫】ままごとコーナーの充実。

実践4

11～12月

フェルト素材の果物、野菜、
チェーンリングを用意

ままごとコーナーに
鏡を設置



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 新しい素材は人気ですぐになくなってしまったが、自分一人が満足のいく数を確保できたことでそれぞれが自由な遊び方ができていた。
- ◆ 意図的に高月齢児4名ほどにした(人数を工夫した)ことで、じっくりと楽しむことができた。また、鏡に全身が写ることで遊びが広がった。

【次の課題】

食べ物以外の道具の工夫。
(人形のお世話などごっこ遊
びの充実)

実践1

6~7月

【子どもの姿】月齢が高いが、室内遊びでは玩具をまず口に入れようとする児が多い。

【保育環境改善の工夫】様々な感触のセンサーバックを用意し、室内で自由に手に取れるようにする。



室内で自由に手に取って遊べる硬さの違う様々な感触のセンサーバックを用意する。(中身は以下のとおり)

- ① スポンジ
- ② 片栗粉 (加熱したもの)
- ③ 片栗粉 (水に溶いたもの)
- ④ 洗濯のり
- ⑤ 保冷剤



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 指先で押す、手に持ち液体が流れる様子を見るなどセンサーバックの感触を楽しんでいる。
- ◆ 床に貼らずに自由に手に取れるようにしたことで、それぞれが落ち着いた空間に持っていきじっくりと遊んでいる。

【次の課題】

センサーバックの上からではなく、実際に実物に触れてあそべる感触遊びを用意したい。

【子どもの姿】夏の間、湯水や氷遊びを楽しんできた。まだ玩具を口に入れようとする姿が見られる。

【保育環境改善の工夫】一人ひとりがじっくりと実際に触れて遊べる寒天遊びを机上に用意する。

実践2

7~9月



赤・緑・黄色の3色の寒天の塊。まずはこの塊に触れてみる。

保育士が手で崩しながら小さく分け、一人ひとりバットの上で遊ぶ。



ゼリーカップを用意。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 大きな塊を自分で崩す児、保育士が触れて見せることで安心して触れる児がいる。
- ◆ 透明カップの中に一色のみを指でつまんで入れている児もいる。
- ◆ 大部分の児は手で触れることができ30分以上遊ぶ児もいた。

【次の課題】

バットが小さくダイナミックに遊びづらかった。ダイナミックに遊ぶ感触遊びを用意したい。

実践3

10～11月

【子どもの姿】新聞紙を出すと指先で破いたり、顔を隠して遊ぶ姿がある。

新聞紙などを口に入れそうな姿も見られる。

【保育環境改善の工夫】指先や全身で新聞紙に触れられるよう、室内に新聞紙を貼り廻らせる。

大きくつなげた新聞紙で遊んでみよう！



切り込みを入れた新聞紙や、2重に重ねた新聞紙を設定。



すずらんテープに新聞紙をぶら下げて…。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 二重の新聞紙は指先で丁寧にめくり中の写真を見ている。
- ◆ 大きな新聞紙は破らずに大切に扱っている。
- ◆ 部屋中に新聞紙を用意することで指先だけでなく全身で触れたり破くなど、思いきり遊ぶことができた。

【次の課題】

壁やすずらんテープにつけた新聞紙がなくなると手持無沙汰になる児もいる。より遊びこめる環境にしたい。

【子どもの姿】新聞紙を指先でちぎれるようになり、口に入れようとする姿が少なくなる。

【保育環境改善の工夫】指先だけでなく全身で新聞紙の感触を楽しむボールプールを設定する。

実践4

11～12月

2種類の新聞紙ボールプールを設定。壁に貼った新聞紙でも遊ぶ。

新聞紙を細く破いたもの



新聞紙をボール状にまとめたもの



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 新聞紙を思いきり投げ上げたり、自分で体に新聞紙をかけて顔を出し“いないいないばあ”をしたりと、やりとりを楽しんでいる。
- ◆ 細かく破いた新聞紙のプールの方が感触や設定が魅力的だったようで、よく遊んでいた。

【次の課題】

素材を工夫するだけでなく、子どもが自ら触れてみたくなるような周囲の設定も工夫していきたい。

3 グループ 1,2歳児クラス 11名(男児 7名 女児 4名)

実践1

6~7月

【子どもの姿】1歳児は2歳児が使用している玩具が気に入り、玩具のやり取りについてのトラブルが多い。

【保育環境改善の工夫】1歳児と2歳児がなるべく分散してじっくり遊べるようにした。



1歳児が特に興味のある玩具を一つの棚(コーナー)にまとめて配置。

2歳児に人気なままごとコーナーは棚で仕切りを付けた。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 1歳児が主体的に玩具を手に取り、遊びを進める姿が見られたのは良かった。
- ◆ 1歳児がパーテーションをどかして2歳児の中に入ってしまい、遊びが中断してしまう様子も見られた。別のコーナーの充実化を図ることも大切だと感じた。
- ◆ 飽きずに遊べるように定期的に玩具の見直しをすると良い。

【次の課題】

各コーナーで遊ぶ様子は見られるが、満足のいくまでじっくり遊びこめるよう、それぞれのコーナーをさらに充実させていきたい。

【子どもの姿】集中して一つの遊びを行うことが少なくすぐに飽きてしまう。

【保育環境改善の工夫】ままごとコーナーに着目。設置場所の変更と玩具の追加。

実践2

7~9月



壁側にあったキッチンを部屋の真ん中に設置



赤ちゃんの人形・その衣服・キッチンクロスなどを追加

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ キッチンを真ん中に設定することにより、キッチンを挟んで「いらっしゃいませ」などごっこ遊びを行う姿が増えた。また保育士が遊びに入り、一言声をかけるだけで遊びがより広がるように感じた。
- ◆ キッチンクロスの使い方がわからず戸惑っている姿が見られたが、保育士が机に広げて使用した姿を見て、その上にご飯をのせてパーティが始める、といった様子が見られた。保育士の関わりも大切であると感じた。

【次の課題】

各コーナーでじっくり遊びこめる環境作り。

実践3

9~11月

【子どもの姿】一人で落ち着いて遊びたい児と友だちと一緒に遊びたい気持ちの強い児など様々である。

【保育環境改善の工夫】ままごとコーナーの設置場所の変更と玩具の追加。



ままごとコーナーを壁側に設置する。



エプロン・三角巾の数を増加。

また机上コーナーにあったおにぎり・サンドウィッチをままごとコーナーへ移動。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 机の近くにキッチンがあることによって、みんなで椅子に座りごっこ遊びが進められていた。友だち同士で会話のやり取りも行いながら遊びを進めようとする姿も見られたため、保育士も遊びに入るとより会話のやり取りを広げることが出来ていたと感じる。
- ◆ サンドウィッチが特に人気で集中して遊んでいる。また保育士が弁当箱を持ってくると「そうだ！これにいれてピクニックに行こう！」などと話す姿が見られた。

【次の課題】

他の布系の玩具も増やしながらいよいよままごとコーナーを充実させていく。

【子どもの姿】友だち同士で会話のやり取りを楽しみながら遊ぶ様子はあるが、遊びがマンネリ化してきており、すぐに飽きてしまっている。

【保育環境改善の工夫】ままごとコーナーを見直す（実際の道具の活用）。

実践4

11~12月



本物の鍋・お玉・お皿・フライ返しや、毛糸、飲食店のチラシなどを設置。

1歳児がままごとコーナーで遊ぶ際は保育士が近くで見守りながら一緒に遊ぶようにする。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ これまでは単純にお皿に料理を盛り付けるのみであったが、フライパンなどを用意することによって、キッチンで調理しお皿に盛りつけて遊ぶ姿が見られるようになった。→大人が実際に使っているものは子どもの興味関心度が高く、遊びの幅も広がると感じた。
- ◆ 飲食店のチラシを用意し、保育士が「これ食べたいな」と話すとそのままお店屋さんごっこが展開されたため、保育者の関わりも重要であると感じた。
- ◆ 写真を貼ることで同じ場所にすぐに片付けることもでき、整理整頓もできていた。

【次の課題】

別のコーナーの充実化

考察：研究を振りかえって

■ 環境を構成していく中で大事にしたこと

- ・ 子どもの今の姿や興味に合わせた環境を用意し、姿に合わせて変化させていくこと。
- ・ 担任間での共通認識 → 環境を作る（物的環境）→ 一緒に遊び込む、言葉がけ（人的環境）→ 振り返りのPDCAサイクル

■ 事例研究をしていく中で気づいたこと

- ・ 保育士の思いが強すぎると上手くいかないこともあるので、子どもの姿をよく捉えていくことが大切。逆に想定しなかった遊びに発展することもあるが、主体性を大事にし、見守っていくことも大切。
- ・ 環境を工夫することで子どもの遊び方が変化し、大人の否定的な言葉がけも減らすことができるということに気付いた。

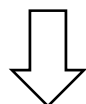
■ これからの保育で活用したい内容

- ・ 担任間でのコミュニケーションを日頃からたくさん取っていく。環境について共通認識を持つことや、色々な意見を取り入れながらみんなで環境を作っていくことが大切。
- ・ 手作り玩具や新聞紙など、身近なものを積極的に活用していく。ダイナミックなものは準備や片付けが大変だが、設定してみるとよく遊ぶ姿があったので、室内でもダイナミックな遊びをたくさん取り入れていきたい。
- ・ 子どもの“今”を大切にし、姿に合わせて環境を変化させていくこと。
- ・ 発想の転換により、デメリットがメリットに変わることもあるので、柔軟に考えていく。

4 グループ

どのような環境設定にしたい？

- ・ 異なる各園の環境（保育室）と、限られたスペースの中で、子ども達の気持ちが落ち着く空間を設けたい。
- ・ 子ども一人一人がやりたいと思ったことを満足するまでじっくりと取組める空間を作りたい。
- ・ 子どもの想像や表現を反映でき、その遊びが展開しやすい空間を構成したい。



テーマ

満足できるまで遊べるコーナーの
設定

実践1

6~7月

【子どもの姿】 ままごとが人気だがトラブルが起きやすく十分に遊べない。

【保育環境改善の工夫】 ままごとの充実と整理、簡易コンロの活用

ままごとコーナーの充実

コーナーを保育室奥の囲まれたスペースに設定。バッグやエプロンなどの小物の置き方を整理。ハンバーガーやドーナツセットなど、お店屋さんごっこを楽しめるようにした。



簡易コンロを設置。動かすことでお店のカウンターに見立てることもできる。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ バッグは置き方を変えると手に取る子どもが増えた。
- ◆ 遊ぶスペースが増え取り合いなどのトラブルが減った。
- ◆ 同じものでも置き方を変えることで手に取りやすくなる。
- ◆ 関心に合わせて遊びを増やしていくと広がっていく。

【次の課題】

保育士がやりとりの仲立ちをしていく必要がある。玩具が増えた分片付けができず部屋に散乱している。

【子どもの姿】 ①玩具の置き方を変えると、片付けられず部屋の中が散乱する。

②遊びを見つけられずにいる子が数名見られる。

【保育環境改善の工夫】 遊びのバリエーションを増やす、片付けの工夫。

実践2

7~9月



フェルトのケーキやバンダナといったアイテムを増やし、ままごと遊びを発展できるようにする。

棚に大きく玩具の写真を掲示。ままごと道具は一つずつの写真を作成した。



マグネットのタングラム・新しいパズル・紐通し等、机上の遊びの充実を図る。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 新しい玩具を身に着け、友だち同士真似をしあい“同じ”を喜んでいる。
- ◆ 新しい遊びに関心を持ち、手に取っている。
- ◆ 玩具の棚は分かりやすい掲示が効果的である。
- ◆ 保育士が決められた場所に片づけると子どもは真似して片づける。

【次の課題】

友だちと一緒に楽しんだりやりとりを楽しんだりできるようなアイテムを考え、遊びを深めていく。

実践3

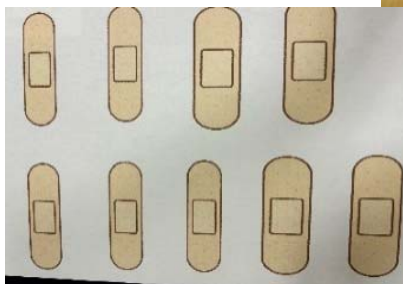
10～11月

【子どもの姿】 友だち同士でやりとりしながらままごと遊びを楽しんでいる。

【保育環境改善の工夫】 子どもたちの興味に合わせた素材の設定。
 選べる遊びを増やし、ごっこ遊びの充実を考える。

子どもにとって身近なお医者さんごっこやお家ごっこが楽しめるようなもの（薬や絆創膏、お洗濯セット等）を、ままごとコーナーに設置。

全ての遊びを出しておくのではなく、遊びのセットごとにまとめておき、遊びを変えながら楽しめるようにする。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 人形を使って保育士と一緒に遊ぶと「お薬飲む?」「お熱があるね」と、子どもたちもごっこ遊びを始めている。
- ◆ 子どもの遊びの姿からアイテムを増やすとさらに遊びが展開する。
- ◆ 対保育士を経て、友だち同士のやりとりにつながっていく。

【次の課題】

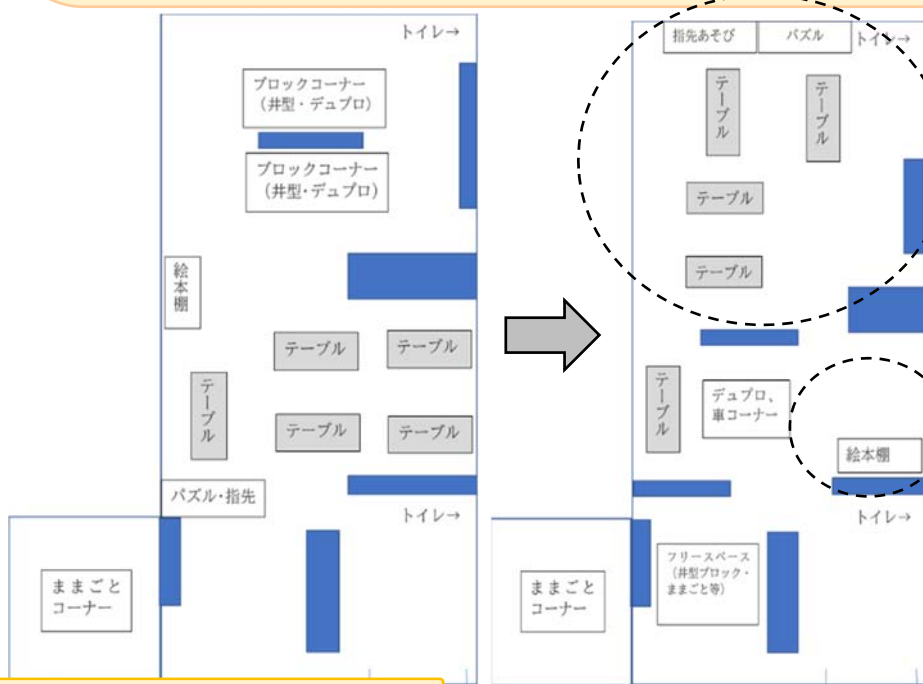
ごっこ遊びの内容によっては手に取りたい児が多く取り合いになる。遊びが分散するような環境を考える。

【子どもの姿】 パズルなどの遊びを中断し、違う遊びに向かったりする。

【保育環境改善の工夫】 レイアウトを変更しコーナーであそびやすい空間を作る。

実践4

11～12月



室内の環境を大きく変え、机上遊びの場所を奥のスペースにした。

指先遊びの種類を増やし選べるようにした。

絵本をより静かに、落ち着いたスペースで楽しめるように、室内中央から壁に囲われたスペースに絵本棚を移動した。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 机を奥に移動したことで人の出入りを気にせず、机上遊びに集中できる。
- ◆ 絵本を室内で持ち歩かなくなる。
- ◆ 壁をうまく使い囲われた空間を作ると落ち着く姿につながる。
- ◆ 環境を大きく変えると子どもの姿も大きく変わる。

【次の課題】

お絵描きや粘土なども好きなため自分で出し入れができるような設定の工夫を考える。

実践1

6~7月

【子どもの姿】 他児の使っている物を取るなどのトラブルが増えている。

【保育環境改善の工夫】 ままごとコーナーを広く活用、遊びの分散化を図る

キッチンのコンロ・シンク台を
2カ所に分けて設置。
⇒少人数で遊べる場所を作る。



混み合っていたデュプロコーナーを、
「組み立て」と「乗り物」のコーナーに分けた。



町のイラストの
シートを床に
敷き、空間を分
けた。

棚を車庫にして遊べるようにした。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 同じコーナーでもスペースを分け、同じおもちゃを複数設置することで、子どもが分散して遊んでいる。
- ◆ 遊びのスペースを確保することでじっくり遊びこむ。
- ◆ 限られたスペースの中では、棚も遊びスペースの1つとして使用でき、遊びの幅が広がる。
- ◆ 目新しい玩具には子ども達の興味が集中するが、継続した観察も必要。

【次の課題】

おもちゃの入れ物を持ち 歩
くようになり、トラブルが起
きている。

【子どもの姿】 遊具の入っているかご、入れ物を独り占めする。

ままごとコーナーが混雑し、部屋中に持ち歩いている。

【保育環境改善の工夫】 出しやすい、片付けやすい収納を考える

実践2

7~9月



ままごとコーナーの素材かごを固定し、
使いたい物を1つずつ取り出せるよ
うにした。
食べ物を入れる容器を増やし複数児が
遊べるようにした。



基盤板前に椅子を用意し、
座って遊べるようにした。

ブロックを1色に対し、かごを2つ
用意し、多くの子がブロックを手
に取れるようにした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 独り占めをする児に対し注意をするのではなく、コーナー内で遊ぶことができるための工夫をすることも必要。
- ◆ コーナー内で遊ぶ児が増え、同じ遊びをする児同士の関わりが生まれるといった影響もあった。

【次の課題】

子ども同士でやりとりをする
姿が見られるので、関わりが
持ちやすい環境を作りたい。

実践3

10～11月

【子どもの姿】好きな遊びをしている中で、周りの遊びにも興味が出てくる。

【保育環境改善の工夫】子ども同士の関わりへと遊びを広げる環境作り



ままごとコーナーを
を広げ、2つのス
ペースに分けた。



子ども同士の関わりが増え、お
店屋さんごっこなどができるよ
う カウンターを設置した。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 子ども達がコーナー外へ出て遊ぶ姿があることから、コーナーを拡張し、2つのスペースに分けた。そうすることで“おでかけ”場所として行き来して自由に遊ぶ姿が見られる。
- ◆ カウンターを設置することで、お店屋さんごっこをしたり、家庭で経験したことを再現する遊びが増える。
- ◆ やりとりでは保育士の仲立ちがあることで、ごっこ遊びがより充実する。

【次の課題】

他の遊びが見えすぎてしまうことで、集中して遊ぶことのできない児がいる。集中して遊べる場を作る。手先の遊びが少ないため、増やしていく。

【子どもの姿】遊びが広がる中で、新しい遊びや関りを求める姿が見られる。

【保育環境改善の工夫】一人遊びができる環境と、静と動を考えた環境作り

実践4

11～12月

指先の遊びができるような
ボタンを使った手作り遊具
を設定。



パズルコーナーとし
てテーブルを壁付け
にし、パーソナルス
ペースを作った。



シールやお絵かきなど、手先指先
遊びの素材を増やした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 手先・パズルコーナーでは壁を向いて遊ぶ環境に変更すると、周りの遊び等に気が散りにくくなり、集中して遊んでいる。
- ◆ 手先遊びコーナーだけにこだわらず、ままごとの中にも手先の遊びを取り入れることで、自然に手先を使って遊ぶことができる。

【次の課題】

遊びの中で自然と指先を使う
遊びを増やしていきたい。

実践1

【子どもの姿】友だちと遊びたいが黙って玩具を取ったり、大声で威嚇したりする子がいる。

6~7月

【保育環境改善の工夫】ままごとコーナーの充実。

◎ベットに食材をたくさん入れて持ち歩いてしまう姿があったのでベットをなくし、おんぶ紐とバンダナのみにした。



◎ままごとコーナーに水道、おたま、包丁セット、フライ返しを設定した。また、片付ける所を写真で貼って子ども達が自分で片付けやすいようにした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ ままごとコーナーに目新しい物を一気に出したことで興味が分散され、トラブルが減り、各々が好きなように遊びを楽しんでいる。
- ◆ 新しいおもちゃを出した後はそのおもちゃが子どもたちの興味や関心に合っていたかどうか継続して追っていくことが大切。
- ◆ 棚を整理して写真を貼ったことで子ども達が自分で片付けをする姿が増えた。

【次の課題】

水道の配置を変え、密集しないようにする。
トング、フライ返しの設定の仕方を改善していく。

【子どもの姿】ままごとコーナーが狭くなり、様々なところに歩いて行ってしまっている。

実践2

7~9月

【保育環境改善の工夫】子どもの姿に合わせたおもちゃの入れ替え。

◎トングやおたまを吊るしていたものが落ちてしまったのでピックアップレールでつるすようにした。

◎棚を動かし、バックを設置。お弁当やジュースを持ち運べるようにした。

◎水道の配置を変え、横並びにならないようにした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 子ども達がフックにトングやおたまをかける仕草で指先を刺激することにも繋がっている。
- ◆ おもちゃの配置を少し変えただけだが、子どもががーか所に固まることを避けられ、あそびの場が分散したことでトラブルが減った。
- ◆ 同じ遊びを楽しむ児が増え、関わりを仲立ちしてもらいながらではあるが、やりとりが増えて遊びがより展開していく姿が見られた。

【次の課題】

パーティションの位置を変え、スペースにあったごぎを置くようにする。
遅番時のおもちゃの工夫。

実践3

10～11月

【子どもの姿】ままごとで遊ぶ児が増え、他の遊びをする児のスペースを取っている。

【保育環境改善の工夫】子どもの姿に合わせた環境の大幅見直し

◎ままごとコーナーを広くした。
対面で棚を置いたことでやりとり
や、少しお出かけできるようなス
ペースを確保した。



◎ブロック遊びコーナーをままごとと
混在しない場所に設定した。また、色
分けしてしまうように変更した。



◎絵本コーナーを、壁やドアに囲ま
れたスペースにして落ち着いて絵
本を見られるスペースにした。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 絵本コーナーが囲われたことで、特定のスペースで座ってじっくり絵本を見る子が増えた。
- ◆ 春は難しかったが色分けしてブロックをしまえるようになり、色にも興味が出てきていた。
- ◆ 子どもの好きな遊びに合わせて環境を変えると、更に遊びが発展していくことが分かった。

【次の課題】

机上遊びを充実させる。
ままごとコーナーが他のコー
ナーと混ざる。

【子どもの姿】ごっこ遊びが広がり、歩きまわってしまう。

机上コーナーが整理されておらず、自分で取り出して遊ぶ環境が整っていない。

【保育環境改善の工夫】ままごとコーナーを子どもの姿に合わせて少し変更。

机上コーナーの整備。

実践4

11～12月

◎ままごとコーナーに棚を増やし、パーテーション
も使って少し囲われたスペースを設定。



◎机上のおもちゃが置いてあるスペースを整理。
パズルのパーツの混在や紛失を防ぐ為、チャック式
の袋に一枚ずつしまうようにした。
→パズルを完成させることの達成感をより感じら
れるようになった。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ おもちゃをそれほど入れ替えなくても、棚の位置やコーナーの場
所が少し入れ替わるだけで遊びに発展があることが分かった。
- ◆ よく遊んでいるスペースを広げる事で遊びがより活発になり、友
だちとの関わりや日常を遊びに取り入れたごっこ遊びが盛んにな
っていった。
- ◆ 今までパズルにあまり気が向かなかった児も、一目見て何のパズ
ルが入っているのか分かるので興味のあるものを手に取り、種類
が増えた事やピースが揃っていることから完成させることの達成
感を味わえるようになってきた。

【次の課題】

シール貼り等の指先遊びの
バリエーションを増やして
いく。

実践1

6~7月

【子どもの姿】 ままごとコーナーから皿を持って他コーナーにいる保育士や友だちに持っていき姿がある。その際、隣のコーナーを通るので、遊びの妨げとなってしまうことがある。

【保育環境改善の工夫】 ごっこ遊びのコーナーを増設する。

ままごとコーナーから出入りする時、隣のコーナーの妨げとならないよう、棚の位置を変更。



お出かけなどのごっこ遊びができる屋根付きのコーナーを設置。

レジャーシートを敷き、公園、海、山などの写真を飾り、お出かけごっこのイメージが膨らむようにした。

【次の課題】

お出かけごっこでは、ソファを電車に見立てて大人の真似を楽しんでいたため、電車ごっこや会社ごっこなどその他のごっこ遊びも楽しめる空間構成や玩具を用意していきたい。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ ままごとコーナーから新しいコーナーにお出かけし、ピクニックごっこに展開したり、海に見立てたごっこ遊びをしたりと、経験が繋がってイメージが膨らみ、遊びが展開している。
- ◆ 新しいコーナーに天蓋を付けたことで、囲われた空間となり、落ち着いて遊び込める空間となった。

【子どもの姿】 保育士や友だちとごっこ遊びを楽しむ姿が増えている。

【保育環境改善の工夫】 様々な素材を使ったごっこ遊びの玩具を用意し、活動や子どもの様子に合わせてごっこ遊びを設定。

実践2

7~9月



<洗濯ごっこ>

クリップ、布を設置



<ドライブごっこ>

新聞紙の輪、風景の写真を設置



<お歌ごっこ>

マイク、衣装、ステージを設置



<ピクニックごっこ>

お弁当箱、バンダナ、バック設置

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 様々な道具の使い方を保育士と一緒に知りながら、手先をたくさん使って遊ぶことが出来ていた。
- ◆ 想像したことを話したり、歌を歌うなどしながら、言葉を交えたやりとりや表現を楽しんでいた。言語面においては、「いれて」「むすんで」など様々な言葉を使ってみる機会にもなったことがよかった。

【次の課題】

- ・室内で洗濯ごっこを楽しめるように設定する。
- ・指先遊びコーナーの充実を図っていく。

実践3

10～11月

【子どもの姿】指先遊びコーナーでは、パズルやイメージ遊びの玩具をよく使っている。棚の玩具や絵本は決まった返す場所がなく、適当に棚に置き、積み重なっていることもある。

【保育環境改善の工夫】指先遊びの玩具の見直し、絵本コーナーの充実

- ・指先遊びの玩具を見直し、入れ替える。
- ・指先遊びの玩具の棚に玩具の写真を貼る。



- ・絵本の写真を貼る。
- ・絵本を入れ替える期間を短くする。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 新しく棚に出した玩具は興味を持ってよく遊んでいる。指先遊び、絵本は常設しているので、短期間で見直し、入れ替えを行っていくとよいと思った。
- ◆ 細かな紐通しなど少し難しい玩具は、少人数ずつ使い方や楽しさを知らせていくことが大切だと思った。

【次の課題】

お絵描きや粘土遊びのような手先を使う遊びに興味を持つ児は多いが、連日行くと興味を持たなくなるので、同様の遊びの種類を増やしたい。

【子どもの姿】お絵描きや粘土などのコーナーを設けると、興味深く遊ぶ児が多い。

連日出すと飽きてしまうことが多い。

【保育環境改善の工夫】新しい指先遊びを増やす。

実践4

11～12月

シール貼り



のり貼り



マグネットタングラム



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ マグネットタングラムは、遊び方が分かりやすく、想像し自由度も高く、遊び込めていた。同様の要素のある玩具を増やしていきたい。
- ◆ のり貼り、シール貼り、折り紙など、簡単な製作遊びを複数用意したことで、夕方の時間など机上で落ち着いて遊べるコーナーを設けることができた。また、少人数ずつで遊ぶことで、指先の動きなどを丁寧にみることができた。

その他、折り紙の見本

【次の課題】

子どもの姿を観察しながら指先遊びの新しいものを増やしていきたい。

考察：研究を振りかえって

■ 環境を構成していく中で大事にしたこと

- ◎子どもの興味関心を捉えて遊びに取り入れる
 - ・ 子どもの言葉や話から興味のあるものを探っていく。
 - ・ 子どもの姿に合わせて変化させていく。
- ◎安心できる個室感
 - ・ 好きな遊びにじっくり取り組んでいるか。
 - ・ 安心できるスペースとなっているか。
 - ・ 子どもの目線や動線を考慮する。

■ 事例研究をしていく中で気づいたこと

- ・ 空間を整えることで、子どもは満足するまで遊びこめる。
- ・ 子どもの発達に合わせた遊びを設定すると、子どもは達成感を味わうことができ、保育士は一人一人に必要な援助が見えてきた。
- ・ 子どもの興味の移り変わりは早く、新しいものに飛びついて遊ぶが一時的である。その後も継続的な観察が必要。
- ・ 他園の遊び・環境を参考に自園にも取り入れ、新たな発見があった。また、悩みを相談することができた。
- ・ ままごと遊びを充実させたことで、子ども同士が言葉でやりとりする姿が増えた。

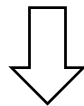
■ これからの保育で活用したい内容

- ◎子どもの姿を捉える
 - ・ 子どもの興味・関心がどこにあるかを、姿や言葉から探ろうとすることが保育を計画する上で大事である。
 - ・ 子どもの関心があるコーナーを拡張する。
 - ・ 子どもの興味を遊びに取り入れる時は迅速に行うことが大切である。
 - ・ 空間を構成した後も継続した観察・考察・実践が必要である。
 - ・ 「ダメ」「○○しないよ」等の否定語が多くならない為の工夫をする。
- ◎ポイント
 - ・ 他からの刺激が入り過ぎない環境づくり。
 - ・ 遊びの内容や環境は静と動が考慮されているか。
 - ・ おもちゃの置き方を工夫し、子どもが片づけやすいようにする。
 - ・ 指先遊びのレパートリーを増やす。
 - ・ 日々の生活や経験したことをごっこ遊びに取り入れる。

5 グループ

どのような環境設定にしたい？

- ・ 子どもが自分たちで選択し満足して遊べる環境。
- ・ 遊びが広がる環境設定。
- ・ 静と動を分けて、落ち着いて過ごせるようにする。



テーマ

3歳児の子ども一人一人が
遊びこめるコーナー作り。

実践1

6~7月

【子どもの姿】絵本コーナーができて集中して絵本を見て楽しめている。

【保育環境改善の工夫】絵本の選びやすさ、取り出しやすさを考える。

<改善前>

絵本コーナーができて、ゆっくり集中して絵本が見ることができるようになったが、本棚にたくさんの数の絵本があり、本棚の中がぐちゃぐちゃになってしまっていた。



<改善後>



絵本を選別して、絵本棚に置く冊数を十数冊にした。

また、絵本を置く際に全部絵本の表紙が見えるような形で置くようにした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ ぐちゃぐちゃに重ねることなく片づけることができるようになり、見たい絵本をスムーズに手に取れるようになった。
- ◆ 絵本数が少なくなったことで、絵本を通して他児との関わりが増えた。
- ◆ 表紙が見えるように置けず、縦に置いて片づけている。

【次の課題】

- ・絵本の写真を貼り、絵本を片づける場所を分かりやすくする。
- ・つっぱり棒で絵本棚を2段にする。

【子どもの姿】冊数が少なくなり、ぐちゃぐちゃに重ねて片づけなくなった。

【保育環境改善の工夫】並べる絵本の容量を増やす。見やすく片づけやすい環境を作る。

実践2

7~9月

つっぱり棒を使い2段にして置きやすいようにした。



片づける際に写真を見て、表紙が見えるように片づけられるようになった。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 絵本の写真をそれぞれ貼り、視覚的に分かりやすくなったことで、表紙が見えるように片づけられるようになった。
- ◆ 視覚的環境とつっぱり棒で簡易的な棚を作ったことで、すっきりした絵本棚になった。
- ◆ もう少し絵本を置けるようにしてもいいかもしれない。

【次の課題】

クッションを置いたり、背もたれがついている椅子を置いたりして、さらに落ち着ける環境を作ってもいいのではないかな。

実践3

10~11月

【子どもの姿】視覚的に分かりやすくなり、表紙が見えるように片付けられるようになる。

【保育環境改善の工夫】快適な絵本コーナーの構成。

絵本コーナーにクッションを2つ新しく置いてみる

*クッションの上に座って読んでもいいし、寝転がって読んでもいいようにした。

絵本を見る以外にも、クッションを枕にしてちょこっと休憩として活用する姿も。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ クッションの上に座って読んだり、絵本を読む以外にもちょっとした休憩として活用していた。
- ◆ クッションの使い方も、投げないという約束以外は制限せずに使用するようにしたことで、子ども達自身で考えてそれぞれ活用できていた。

【次の課題】

クッションの他に、休憩エリア的なスペースを作ってみてもいいかもしれない。

【子どもの姿】絵本棚の隣のあいているスペースで、クッションを枕に横になり休憩する。

【保育環境改善の工夫】子ども達のホットスペースの構成。

実践4

11~12月



本棚の隣の空いていたスペースに、カーペットを敷いてちょっとした休憩エリア的な環境をつくる。



スペースの中で横になって、寝転がって休んだりする姿も。

★子どもの変化と保育のポイント

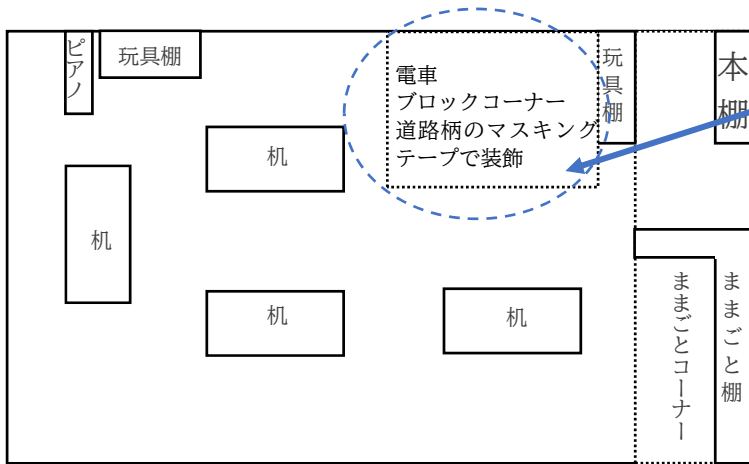
- ◆ スペースの中で横になったり、2人で入って座って話をしたりと子ども達なりにスペースを使って過ごしていた。
- ◆ スペースの使い方のルールを特に決めなかったことで、縛りなく子ども達が活用できていたように感じる。

【次の課題】

絵本コーナーとしてリラックスして読める環境や、ちょっとした休憩スペースができ、よいコーナーになったと思う。

実践1
6~7月

【子どもの姿】遊びのコーナー分けが曖昧で静と動の動きが混同しており、遊びの中で衝突などの危険性がある。
【保育環境改善の工夫】遊びのコーナーを視覚的に分かりやすくする。



ブロックや電車遊びのコーナーとして視覚的に分かりやすいよう、床に道路柄のマスキングテープを貼った。

子どもたちが楽しんで遊び込めるよう、マスキングテープの貼り方や、道路の周りの装飾を子ども達の案を取り入れて行った。

【次の課題】

コーナーの区切りで遊ぶなど危険な遊び方が見られたので区切り方を工夫する。子ども達が好きな遊びができる場所を作る。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 視覚的に分かりやすくしたことで、一定の場所で落ち着いて遊ぶようになった。
- ◆ 子どもの意見を取り入れたことで意欲的に遊べると感じた。

【子どもの姿】コーナーの棚裏に隠れたり、継続して遊びたい遊具（カプラ）を保管する場所がなく、遊びが継続できずにいる。
【保育環境改善の工夫】各々が遊び込める環境を作る。

実践2
7~9月

絵本兼くつろぎコーナーの区画を「カプラ専用のコーナー」として改めた。

カプラコーナーは部屋の奥隅のため、周りとは遮断されており安心して保管しておけるようにした。



絵本コーナーは使われていない押し入れのドアを開放し、その窪み部分に設置した。

棚の裏に隠れていた子どもは絵本コーナーでくつろいでいた子ども達のため、絵本兼くつろぎコーナーを別に設置したことで隠れる子もいなくなった。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 窪みが安心する様子で常に子どもがいる状態が多く感じた。
- ◆ 適度な窪みが落ち着くようで壁を背に座る子が多い。

【次の課題】

ままごとコーナーが他のコーナーと遮断されておらず、他の遊びが混ざりやすい。

実践3

10～11月

【子どもの姿】他のコーナーとの遊びが混ざりやすい。

【保育環境改善の工夫】コーナーの内容によって広さを調節し、個々の遊びが継続できる環境を再構成する。

コーナーで遊び込めるようにした。棚の高さを調節し、中の遊びの様子がどこからでも見守れるよう配慮した。



コーナーの壁側に常設してあったキッチン棚などを移動して入り口を狭くし、開放的だったコーナーを遊び込めるようにした。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 他の遊びと混ざりづらく、周りから独立しているため遊び込めるようになった。
- ◆ 子どもの成長もあり、完全に視覚を確保しきらずとも安全に遊べるようになったと感じた。また囲まれたことで遊びに集中しやすいのだと感じた。

【次の課題】

ままごとの遊び方にも変化が出始めたため、遊びがより充実しやすい手作り玩具などを取り入れていく必要がある。

【子どもの姿】既存の玩具ばかりで遊びがマンネリ化している。

【保育環境改善の工夫】子ども達の遊びのイメージを広がりやすいようにする。

実践4

11～12月

子ども達の普段の遊びの様子から必要なものは何かないか、担任同士で意見をすり合わせ、細かい用具を揃えていった。



子ども達に「今欲しいものは何か」を問いかけ、その中から抜粋し、廃材を使いながら作れそうな物を作っていた。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 普段している遊びを今まで以上に遊び込んで楽しめるようになった。
- ◆ 子ども達のイメージしていたものを取り入れたことで、イメージを広げやすくなり遊びが大きくなったように感じた。

【次の課題】

子どもの興味に合わせて素材を取り入れ、子ども達のイメージを形にできる環境を考えていく。

実践1

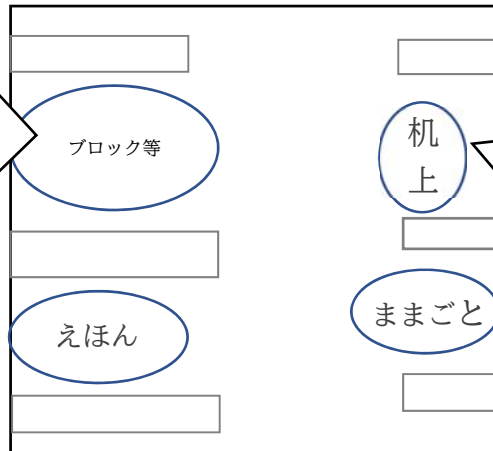
6~7月

【子どもの姿】どのように玩具が混ざらないようにするか。分散の仕方。

【保育環境改善の工夫】各遊びのコーナーを仕切って遊びを分ける。

ブロック・ピタゴラス・線路・積み木が混ざりやすくトラブルになりやすかった。

机やマットで分かりやすいように考えたが子どもに「ブロックはこっちでしょう」「ピタゴラスはここでしょうか」と個々に声を掛けた。



ブロックなどを机上遊びやままごとに持って行く姿もあったが「静かに遊びたい子もいる」ということを伝え、同じ玩具のところに帰り遊びをつづける姿も見られる。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 玩具が混ざってトラブルになりやすかったが、声を掛けると分散できていた。
- ◆ 子ども達も声を掛け合い改善していた。
- ◆ 成長とともに解決できることも多い。
- ◆ 保育士が声を掛けながら遊具を移動することが子ども達の理解につながる。

【次の課題】

- ・ままごとコーナーの見直し。
- ・玩具が混ざりやすいコーナーの拡張。

【子どもの姿】ままごとコーナーの見直し。玩具が混ざりやすいコーナーの拡張。

【保育環境改善の工夫】子どもの興味に合わせて、コーナーの大きさを考えた。

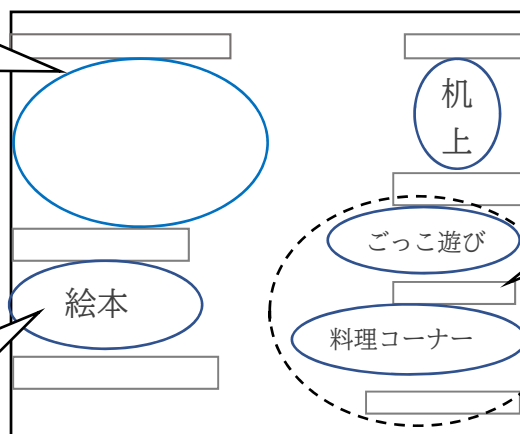
実践2

7~9月

ブロック等のコーナーを広くして、遊びこめるようにした。

ブロックを他のコーナーに持ち込むことが少なくなった。

絵本コーナーは狭くし落ち着ける場所となった。



ままごとコーナーを真ん中で仕切り、ごっこ遊びコーナー・お料理コーナーと分けた。

最初は料理コーナーで人形のお世話をする姿などが見られた。子ども達のやり取りを見守りながらその都度声を掛けることにより料理と分けて遊びを楽しむ姿も見られた。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ ままごとを分けたことで遊びの内容が明確になった。
- ◆ 広くしたり狭めたりしたことで混ざりにくくなったり落ち着く姿がある。
- ◆ 各コースを少し広くしたり狭めただけでトラブルが減ったり、遊び方も変わった。

【次の課題】

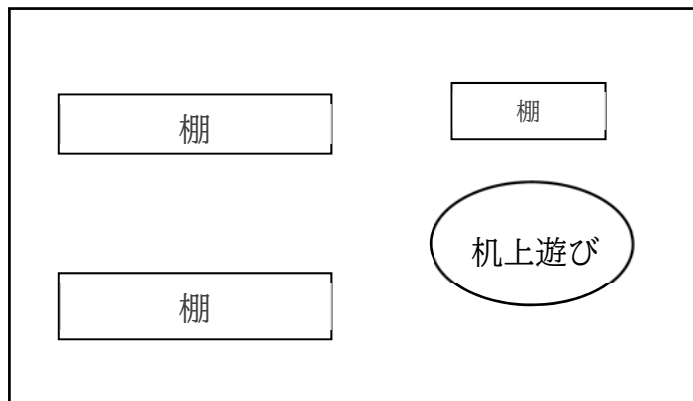
- 玩具の見直し。
- 新しい玩具や手作りの物。

実践3

8~10月

【子どもの姿】玩具の見直し。新しい玩具や手作り玩具。

【保育環境改善の工夫】新しい遊具の検討、素材で遊ぶ



ピタゴラスを置いていたが、安全点検で中の小さな磁石が危ないと判断し、別の玩具を置くようにした。



代替りの遊具として、別の場所に用意している紙コップと洗濯ばさみを棚に置き、子どもたちが様々なことを想像しながら遊べるようにした。

すると、コップを重ねたり、洗濯ばさみで挟んで色んな物に見立てたりして遊び始めた。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ ピタゴラスがなくなっても紙コップ等で楽しんでいる。
- ◆ 洗濯ばさみを服に付けたりとなりきり遊びを楽しんでいた。
- ◆ 今まで使っていた玩具がなくなっても子ども達なりに遊びを見つけて楽しむことができる。

【次の課題】

今の子ども達が何に興味があるのか観察し、遊びが発展するような新しい玩具を見つける。

【子どもの姿】新しい玩具への入れ替えと見直し。

【保育環境改善の工夫】他クラスとの遊具の共有。

実践4

11~12月



4歳児クラスから人型、ぞう、きりん、へびなどの木製遊具を貸してもらい、遊びの素材として取り入れた。



ブロックと組み合わせて役を決めごっこ遊びに発展していく姿も見られた。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 他クラスから借りることで、様々な玩具に触れ興味・関心に繋がるきっかけになっている。また、保育士も発達に沿った遊びを考えることができる
- ◆ 新しい玩具に対して組み合わせたり、物語を考えて楽しんでいる。
- ◆ 購入や手作りだけでなく借りるだけでも楽しむことができている。

【次の課題】

新春のお年玉で購入した玩具の取り入れ方を考えていく。

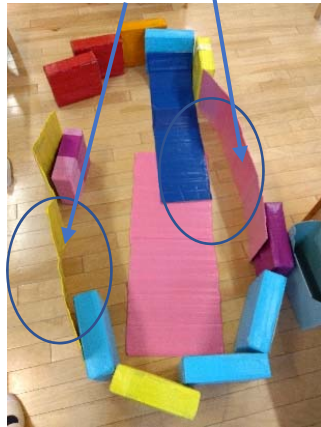
実践1
6~7月

【子どもの姿】コーナーの一面に箱積み木を自分たちで自由に出し入れができるようにした。自分がイメージした物を作って楽しむが、箱積み木の数が足りず、取り合いが多い。
【保育環境改善の工夫】段ボールを切り開きガムテープで繋ぎ合わせた物を用意した。

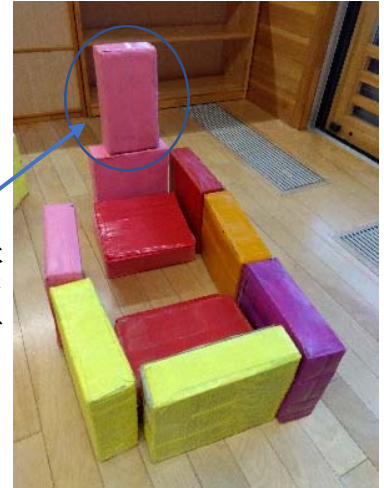
たくさんの箱積み木で家を作った



段ボールも使用して作った家



余った積み木で作った背当て有りの椅子



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 段ボールを敷いて、ゴロゴロと寝転ぶ姿や、壁やドアのようにしてさらにイメージを広げてごっこ遊びを楽しむ姿がある。
- ◆ 壁を作っていた部分を段ボールで補うことで、箱積み木の取り合いが少なくなった。余ったことで遊びの幅が広がった。

【次の課題】

さらに子ども達が、やりとりを楽しめるように玩具を充実させていく。

【子どもの姿】友だち同士のやりとりが少しずつ増えてきた。
【保育環境改善の工夫】新聞紙を折り曲げてハンドルを作った

実践2
7~9月



みんなでドライブ!



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ ハンドルがあることで、友だちを誘いドライブをしたり、やりとりする姿も多くみられるようになった。
- ◆ 自分がイメージしたものを表現して作るところから、友だちとイメージを共有し、一緒に遊ぶことを楽しむ姿になってきた。

【次の課題】

友だちとのやりとりが楽しくなってきた子もいるが、一人でじっくりと遊びたい子もいる。

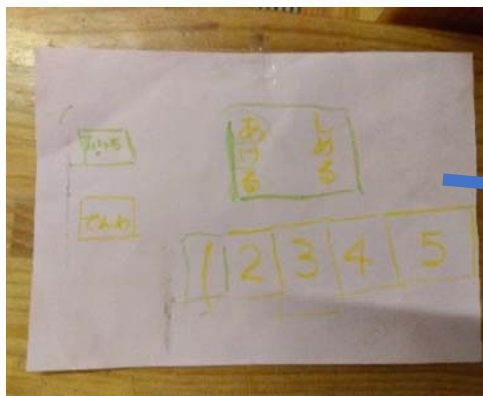
実践3

10～11月

【子どもの姿】イメージを共有して楽しむ姿が見られるようになる。

【保育環境改善の工夫】子ども自身が描いた物を遊びの中に取り入れた。

エレベーターが好きな子が枠を作り、担任が文字や数字を記入したもの



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ じっくりと一人遊びが好きな子もいるが、イメージが具体的に became ことで保育士や友だちを乗せて満足そうにしていた。
- ◆ 子どもから主体的に考え作ったものを遊びの中に取り入れたことでさらにリアルとなり、なりきって楽しんでいた。

【次の課題】

他コーナーの玩具を組み合わせる使いたがっているのので、遊び方や使い方を見守っていく。

【子どもの姿】遊び方や友だちとの関わりが広がってきた。

【保育環境改善の工夫】遊び方のルールの変更。

実践4

11～12月

コーナーに他の玩具が混ざってしまうと踏む危険があること、玩具が乱雑に混ざり合うことでそれぞれの遊びが成り立たなくなる等のため持ち込まない約束だった。

3歳クラスも終盤になり、遊び方や片付けも落ち着き上手になってきたので、様子を見ながら持ち込めるようルールを変更した。

お医者さんセットやままごと、車など他のコーナーの物と合わせて楽しむ。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 箱積み木を家や机にして、ままごとの食べ物を持ってきたり、車庫にしてみるなど、自分たちで遊びを考えて楽しむ姿がある。
- ◆ 箱積み木だけでなく他の玩具も遊びの中に取り入れたことでさらに遊びのイメージを広げ楽しむ様子があった

【次の課題】

玩具が乱雑に混ざってしまい、それぞれの遊びが成り立たないことのないように見守っていく。

考察：研究を振りかえって

■ 環境を構成していく中で大事にしたこと

- ・ 子ども主体→子どもの興味・関心に合わせて一人一人が満足できるようにした。
- ・ 安全面→それぞれの遊びの動線や安全な玩具の使い方。
- ・ 保育士の意見→担任間の意思疎通。

◆ 事例研究をしていく中で気づいたこと

- ・ 子ども達の成長と共に、好きな友達とイメージを共有して、ごっこ遊びが具体的に、遊び方が変化していった。

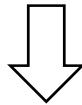
◆ これからの保育で活用したい内容

- ・ 様々な職員の意見を取り入れていくこと。
- ・ 子どもの興味・関心を取り入れていくこと。
- ・ 遊びだけでなく、落ち着ける環境を作ること。
- ・ 一つのコーナーを極めること。
- ・ 変化させ続けることも大切だが、時には子どもの遊びを見守りその環境を継続すること。

6 グループ

どのような環境設定にしたい？

- ・ 子どもの主体性を尊重した環境設定やコーナー作りをしたい。
- ・ 子どもの興味関心を引き出し、自ら遊びたくなるような環境。
- ・ 子どものイメージを広げ、具現化できる製作コーナーの充実を図る。



テーマ

4.5 歳児が自分からあそび込める
環境づくり～製作コーナー～

実践1

6~7月

【子どもの姿】自由に物を作る楽しさに目覚め、女児を中心に登園するとすぐに製作を開始するようになった。

【保育環境改善の工夫】製作の素材・設定の変更。



アルミホイルとスズランテープを設置した。

アルミホイルで作ったアクセサリーをままごとコーナーに並べた。



自由製作用の棚の素材を増やし、且つ取り出しやすくした。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 互いに助け合いながら、作品作りを楽しんでいる。
- ◆ 作りたい子と作品で遊ぶ子に自然と別れる姿が見られた。
- ◆ 失敗を恐れる傾向にあり、新しい素材は見本を見せないと興味があっても手を出そうとしなかった。

【次の課題】

自由製作に興味を示さない子に製作意欲を持たせるにはどうしたら良いのか。

【子どもの姿】自ら使い方を考えて何かを作ろうといった姿があまり見られない。

【保育環境改善の工夫】創作意欲が湧くような素材の設定。

実践2

7~9月

製作や折り紙の本を置いた。



鉛筆・クーピー・水性マーカー・ルーラー・トレーシングペーパーなど製作用素材を増やした。

自由共同製作で作った物をままごとコーナーに設置し、自由に遊べるようにした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 新しい素材でも、得意な子が作り方を教えて苦手な子と協力し合うようになった。
- ◆ 製作のアイデアになりそうな本は創作意欲に繋がった。
- ◆ 製作に苦手意識のある子ほど、自由製作に参加せず走り回って遊びがちだった。

【次の課題】

苦手意識を持つ子が自発的に、意欲的に何かを作りだす環境には何が必要なのか考え、工夫する。

実践3

8~10月

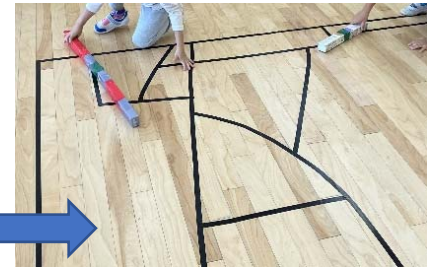
【子どもの姿】自由製作に積極性が見られるようになった反面、製作しない子は室内で落ち着きなく遊ぶ姿が見られるようになった。

【保育環境改善の工夫】製作に苦手意識のある子へ環境作りと工夫。



床の活用。子どもと一緒にビニールテープで線路や道路として使えるような線を床に貼った。

細長い空き箱を繋いで電車を作って見せた。



線の上を走らせて遊ぶようにした。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 見本を見せて誘うと、苦手意識のある男児も興味を持ち始めた。この経験がきっかけとなりその後の創作意欲に繋がった。
- ◆ 落ち着きなく遊ぶ子ども達の興味関心に着目し、新たな環境を作り出すことで、子ども達の意識が変化し、遊びの幅が広がった。

【次の課題】

製作した作品を大切にできない姿から、作った物や素材を大切にする方法を考えたい。

【子どもの姿】製作したものや折り紙が床に落ちている、廃材入れに丸めた折り紙や紙の切れ端が入っている等、素材を大切に使わない様子が見られる。

【保育環境改善の工夫】大切に扱う、もったいないを減らす具体的な方法。

実践4

11~12月



・素材の種類ごとにカゴなどを用意。しかし、保育者が整えておかないと使いかけの物を素材のカゴに入れてしまう。床に落ちている折り紙も多い。



・リサイクルマークを貼った入れ物を用意して使い方を伝えた。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 作ることで満足しがちで、作った物を乱暴に扱ったり、丸めた折り紙や素材を廃材入れにいれたりする姿が見られる。
- ◆ 口頭で伝えるだけでなく、具体的にわかりやすい物がある方が、物を大切にすることが理解しやすく、実践しやすい。

【次の課題】

素材のリサイクルだけでなく、作品の有効活用方法も含めて考え、もったいないを減らす方法を定着させていく。

実践1
6~7月

【子どもの姿】レゴブロックが好きで継続して遊びたいため、壊さずにそのままカゴに戻したり、テーブルに置きっぱなしにしたりしている。
【保育環境改善の工夫】継続して遊べる環境作り。



作品棚を設定。
継続して遊んだり飾っておく場所を設置した。

作品は、個人マークを貼った色画用紙の上に置くようにする。テーブルにも不織布をかけ、見栄えも素敵に見えるようにした。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 続きを楽しんだり、他児の作品に憧れを持ち真似たりする。
- ◆ 保護者にも見てもらうことを喜んでいた。
- ◆ 継続的に遊べることでイメージが更に膨らんだり、続きを楽しむに登園したりしている。

【次の課題】

作品棚に残しておくブロックが増えると、かごの中のブロックがなくなってしまった。期間や量の決まりを作る。

【子どもの姿】作品を飾る期間や量を話し合っただけだが、それでも「壊したくない」「もう同じのが作れない」と主張する子がいる。
【保育環境改善の工夫】作品の写真を掲示する。

実践2
7~9月

どうしても壊すのを嫌がる子に対しては写真を撮り、作品棚に隣接している壁に掲示するようにした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 掲示することで、作品を壊すことに納得している。
- ◆ 見ながら同じように作っている。
- ◆ 壊すことに対して酷な気もするが、画用紙にきれいに貼ってあげることによって喜ぶ姿もある。

【次の課題】

レゴブロックの環境は整ってきたが、製作棚の使い方が雑になってきた。

実践3

10～11月

【子どもの姿】自由に製作できるように設定しているが、片付け方が乱雑になり素材や道具が違うものが入り混じっている。

【保育環境改善の工夫】素材の整理、使いやすく片付けやすい環境。



スズランテープは、目安の長さがわかるように一本見本を作り、垂らしておくようにした。

かごの写真を大きく貼り、種類別に片付けられるようにした。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 片付けをするときは、写真を見て種類別に分けている。
- ◆ 初めのうちは見本を見て切っていたが、慣れてくると好きなように切ってしまう、気に入らない長さだと捨てている。
- ◆ 片付けにおいては、保育士の注意する声掛けが少なくなった。

【次の課題】

家庭から持ってきた物や、半端な紙やテープを入れるリサイクルボックスを作成する。

【子どもの姿】紙やスズランテープの使い方が雑になってきて、気に入らないと捨てたり、やりっぱなしになったりしている。

【保育環境改善の工夫】リサイクルボックスの活用

実践4

11～12月

棚に一カ所、リサイクルボックスのかごを設置。

ものの大切さ、リサイクルという言葉の意味を知らせた。間違えて切ったもの、使わなくなったものはリサイクルボックスへ・・・。

スズランテープを使う時は、一度ボックスを見て、使いたい長さのスズランテープがないかなど確認するようにした。



リサイクルボックスに入っていたスズランテープをつなげて輪を作り、輪投げ遊びをした。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ リサイクルボックスにスズランテープが入っていても、新しく自分で切りたくてかごの中身を確認していない。
- ◆ リサイクルマークに興味を持ち、ティッシュペーパーの箱の裏に書いてあるマークを見つけたり、家庭の中でもマークを探して遊んでいる。

【次の課題】

リサイクルボックスの中が乱雑になり、探しにくい。もう少し種類別になるよう分ける。

実践1

6~7月

【子どもの姿】折り紙や描画などを好んで遊んでいるが、遊びの途中でどこかに置き忘れる姿が多い。

【保育環境改善の工夫】自分のものとして認識・管理ができるように個人製作棚を設置する。

◎製作コーナーの設定の前段階として、まずは自分が作った物への意識を持てるように、個人製作棚を設ける。これにより、個人持ちのクレヨンや作った物、製作途中の物を保管できるようにした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 作った物で棚が雑多になってくるため、“金曜日に持ち帰る”という決まりを子ども達と設けた。量に応じ早めに持ち帰る子もいる。
- ◆ 園庭が充実している環境のため、逆に室内遊びの経験が少ない傾向にある。子どもの育ちや経験を俯瞰して考える意識を持つようにしていく。

【次の課題】

幼児全体で過ごすオープンスペースという環境の中でどのように製作コーナーを設定していくか。

【子どもの姿】製作棚を設置したことで、以前よりも折り紙や描画を楽しむ姿が増えている。

【保育環境改善の工夫】普段あまり経験がない廃材などを使った自由製作を楽しめるようにした。

実践2

7~9月

◎他園の実践報告から『製作コーナーとままごとコーナーを隣接させると子どもの動線が整理され遊びが深まった』という内容があったため、参考にした上でコーナーの配置を設定した。

◎製作コーナーの設定内容については、クラフトパンチ・のり（でんぷん/スティック）・端切れの紙・色鉛筆・セロテープ・リボン・スズランテープ・トイレトペーパーの芯・乳酸菌飲料の空き容器



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 製作遊びの経験が少なく、作った物で遊ぶというよりはまず興味のある素材を組み合わせることを楽しんでいる。
- ◆ 自分でイメージを膨らませ自由に遊べるように設定したが、保育士を通さないと行えない工程が遊びにブレーキをかけてしまった。

【次の課題】

子どもが自分で考えて安全に実行していく経験を保障できる設定に改めて遊んでいく。

実践3

10～11月

【子どもの姿】「これつかってもいい？」と保育士にその都度確認する姿や、スズランテープやリボンを切ってもらうなど、保育士と一度やり取りしてから作っている。

【保育環境改善の工夫】子どもが作りたいイメージが浮かんだ時に、子ども自身で取り扱えるものに変更し“聞いて待つ”という工程を省けるようにした。

◎スズランテープ・リボンは保育士の援助が必要になってくるため、自分で切れる紙テープに設定を変えて遊んだ。



★子どもの変化と保育のポイント

はじめはスズランテープ類と同じ認識で「せんせいきてください」と申し出ていたが、切り方を知らせると自分で切って使い、困っている子に知らせ自由に切り取って遊んでいる。スズランテープ→紙テープに素材を変えたが、製作の経験が少ないこともあり視覚からの情報が優位だったようで、紙の手触りだけでは“自分で切れる”という結論に至りづらい面もあったのかもしれない。

【次の課題】

多めに切って余ってしまった素材、必要な分だけ使って残った素材が発生する状況が何度かあった。ごみにならず上手く活用できる方法を考え実践していく。

【子どもの姿】切り取ったが短かった、思ったより長く切り取ってしまった、といった場合に、使わないで捨てようとする姿が見られた。

【保育環境改善の工夫】リサイクルの考え方を知らせることで、“ごみ”という認識から“工夫すればまだ使えるところがある”という気づきに繋げていく。

実践4

11～12月

◎リサイクルボックスを設置し、マークの意味や用途を知らせた。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ クラフトパンチで画用紙の周囲をくり抜き終えた子が、中心にまだ使えるスペースがあることに気付いて「これはどうしたらいい？」と保育士に聞きに来る。周りを切り取ってくり抜いた部分を返すと、「ああ～」と納得した様子。“一通り使ったがまだ使える所があり、実際に工夫したらまた使えるようになる”という気づきに繋がった場面であった。
- ◆ 【思い通りにできなければそこに入れればいい→どうせ誰かが使うだろう→雑に扱うようになる】という姿に直結しないよう留意しながら関わっていく必要がある。“ものを大事にする”という根本的な考えをしっかりとぶれないようにしながら、素材を活用してイメージを具現化していく楽しさを味わえるようにしていく。

【次の課題】

使い方に慣れてきたので、引き続き遊びながら少しずつスティックのりやボンドといった性質の違いを知る要素、クラフトパンチの追加など、適宜環境を整備していく。また、作った物で遊ぶ活動など、遊びの広がりから新たな製作意欲を引き出せるような関わりをしていきたい。

考察：研究を振りかえって

◆ 環境を構成していく中で大事にしたこと

- ・ 子ども主体の遊びで、且つ内容が発達や興味関心に合っているか。
- ・ 危険がないか。
- ・ 子どもの意見を尊重し取り入れながら、自分で考えて実行する経験を重ねられるか。
- ・ 物の扱い方や簡単な決まり事がわかるような経験にしていく。
- ・ 片付けまでを遊びの一環とし、片付けやすい個数、配置かどうかを検討していった。

◆ 事例研究をしていく中で気づいたこと

- ・ 実践を行うたび新しい課題が見つかる。
- ・ 環境構成の持つ影響力の大きさを感じた。
- ・ 子どもの遊ぶ姿をより意識して観察するようになった。
- ・ 限られた環境の中で構成する難しさ。
- ・ 想定とは違う姿が見られた。
- ・ 子どもの状況や経験によって、遊びの発展や内容に差があり、同じ環境設定をしても各園で違う姿になった→理論だけではなく実践することの大切さを強く感じた。
- ・ 準備や実践を通し、準備の大変さを知る。

◆ これからの保育で活用したい内容

- ・ 部屋全体として考えるのではなく、身近なところから取り掛かれることが大切。それを続けることによって、全体の環境構成に繋がる。
- ・ “変えられない、難しい”の意識改善。
- ・ 子ども主体の“遊びこめる”環境設定を目指す→子どもの興味関心を捉え、やりたい遊びを提供できるようになっていった。
- ・ 保育者の願いも同じように大事であり、今の子どもの姿をよく捉えていく。
- ・ 『自由製作を楽しむ』をテーマに実践を進めていったところ、素材や道具などの物を大切にするには？はさみなどの道具を安全に使うためには？といったいろいろな課題が浮かび上がった。子ども達に経験して欲しい内容や育てて欲しい姿などの到達点を目指すだけでなく、途中で浮かぶ疑問や課題などを子どもの遊びの様子から汲み取り、子どもたち自身でも考えられるように計画実践していく重要性を改めて感じた。職員間での共通理解をしていきながら、保育の中で子どもに知らせ、環境設定に繋げていく。
- ・ 一つの実践から様々な気づきがあり、それは製作以外の保育でも同様に言えることである。

7 グループ

どのような環境設定にしたい？

日頃子ども達は様々な遊びを楽しんでいるが、主体的に自ら遊び込んでいるかというと、そうではない場面も見られる。



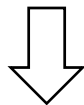
- ・ どのような環境にすると子ども達が自分で遊びを選び、じっくりと遊び込むことができるのか？

様々な方法を取り入れながら、子ども達の主体性を育てていきたい。

“何かを作りたい”という気持ちがあるが、環境が整っておらず、保育士に「〇〇作りたい」「〇〇使いたい」と話す姿がある。



- ・ 保育士の言葉がなくても、子どもたちのイメージが形になるような環境づくりをしていきたい。



テーマ

4, 5歳児が自分から遊びだせる

環境作り

実践 1

6~7月

【子どもの姿】共有のクレヨンを使っており、ふたを開けたまま棚に戻したり、出したままにしたりしている姿がある。

【保育環境改善の工夫】個人シールを貼り、片づける場所が目で見えてわかるようにした。

クレヨンは共有で、
使いたい時に
自由に出し入れし
ているが、クレヨン
の数に対して棚の
段数が多い。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 自分のクレヨンを使うことを喜び、大事に使う姿がみられた。
- ◆ クレヨンを出したままの友だちに声をかける様子もあった。
- ◆ 個人持ちの喜びを感じたことで、大切に使う気持ちよさが感じられた。

【次の課題】

クレヨンだけでなく、様々な素材に触れながら、製作意欲があがるような環境づくりを行っていく。

【子どもの姿】折り紙を楽しんでいるが、カゴから出し入れをすることが難しく、ばらばらになっていることが多い。

【保育環境改善の工夫】色ごとに置き、使いたい色を取り出しやすいようにした。

実践 2

7~9月

折り紙収納
カゴにスズラン
テープで仕切り
をつけて収納。



ペットボトルを
半分に切り、色
のビニールテー
プを貼り、折り
紙を収納（棚に
テープで固定）。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ どこにしまえば良いのかわかりやすくなった。
- ◆ 棚に固定した折り紙入れが簡単にとれてしまい、ペットボトルで遊ぶ姿がある。
- ◆ ペットボトルだと、つぶれる、テープがはがれる等、使用が難しい様子であった。

【次の課題】

色ごとにわけたことはよかった点なので、別の収納方法を考える。

実践3

10～11月

【子どもの姿】簡単な切り紙をしたり、自分の描いた絵の周りを切ったりなどハサミを使うことを楽しんでいる。

【保育環境改善の工夫】素材を出しすぎないようにした。また、壊れにくいものを使用した。

① 段ボールや色画用紙が乱雑に入っている。



② 設置しているペットボトルがすぐに壊れてしまう。



① かごを用意し、そこに扱いやすい量の色画用紙を設定した。

② クリアファイルを紙のサイズに切り、ビニールテープで色分けを行った。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 色画用紙は小さなかごにまとめたことで、自分の使いたい分を持って使用する頻度が上がった。
- ◆ 乱雑に置かれていると、子どもたちも大事に使おうとする気持ちが薄くなる。保育士が大切に使っている姿勢を見せる。

【次の課題】

自分の使いたいものを取り分けて運べるトレーを用意するとよいのではないかな。

【子どもの姿】お道具箱の中に個人用ののりを用意したが、のりを使用する姿が少ない。

【保育環境改善の工夫】自分も“やってみたい”“作ってみたい”と思えるような環境を考えた。

実践4

11～12月

クラフトパンチで型をとったものや、丸や三角など様々な形の色画用紙を用意した。
また、季節にあった製作の本や広告のチラシを用意した。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ クラフトパンチの型を貼ることを楽しむ子、型の抜かれた紙を使用して色を塗る子など、様々な使い方をしていた。
- ◆ 普段と違う形の色画用紙があることで、“何かに使ってみよう”とアイデアが生まれることがわかった。

【次の課題】

ゴミ箱に捨てるか、まだ使えるかの判断が難しく、出しっぱなしになっていることが多い。

実践1

6~7月

【子どもの姿】絵本を友だち同士で読みながらどの服がいいか選んで楽しんでいる。
 【保育環境改善の工夫】人気の着せ替えが付いている絵本から、着せ替え遊びを作って常設した。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 最初は物珍しさから全員が着せ替え遊びに興味を示していたが、徐々に興味が薄れていった。
- ◆ 友だち同士で絵本を見ながら服を決める遊びは続けていた。
- ◆ 興味がある事でも遊びづらい素材だと長続きしなかった。

【次の課題】

着せ替え遊びを紙で作ったため少し遊びづらかった。固い素材で作り直して、子どもたちが繰り返し遊べるようにする。

【子どもの姿】引き続きどの服がかわいいかなど、絵本で選んで遊んでいる。
 【保育環境改善の工夫】紙で作っていた着せ替え遊びをラミネートして、遊びやすく作り変えた。

実践2

7~9月



小さな壁を飾るスペースにした。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ ラミネートで作り変えたことで、再び遊び始めた。
- ◆ 「飾りたい。」との発言があり、小さな壁を飾る場所になると喜んで飾り、遊ぶ頻度が増えた。
- ◆ 自分で作ったものを飾ることで、褒め合ったりしながら友だちとのコミュニケーションも増えた。

【次の課題】

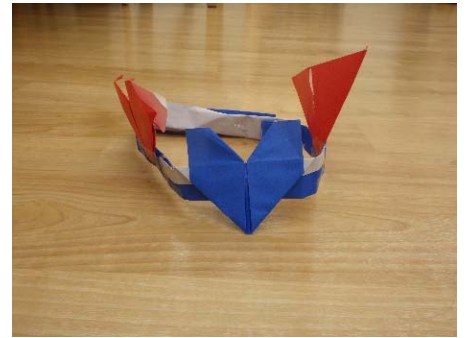
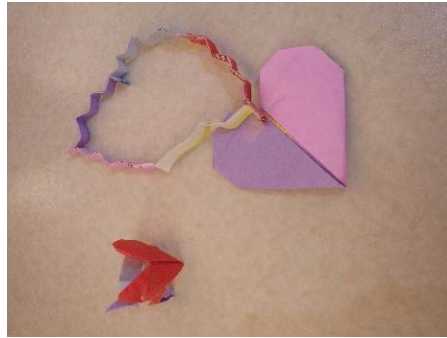
着せ替え遊びから自分を着飾ることに興味が変わってきた様子があるため、自分を着飾れるような素材を用意しておく。

実践3

10～11月

【子どもの姿】年長児に教えてもらって、作れるものが増えることを喜んでいる。

【保育環境改善の工夫】・異年齢児合同の時間に、一緒に製作や折り紙をする時間を作った。
・簡単な折り紙の折り方を印刷して設定した。



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 最初は布を身体に巻き付けて衣装にしていたが、年長児に教えてもらって折り紙で髪飾りなどの自分を着飾る物を作り始めた。
- ◆ 年長児と交流をすることで、自分たちでは考えつかなかった方法で遊ぶことが出来ることが分かった。
- ◆ 物的環境だけでなく人的環境も大事だと感じた。

【次の課題】

年長児との交流で、折り紙などの平面的な製作に興味が出ているので、ブロックや廃材製作などの立体的な遊びも多く取り入れたい。

【子どもの姿】イメージしたものをブロックで表現することを楽しんでいる。

【保育環境改善の工夫】年長児との合同時間に一緒にあそべる時間を作った。

実践4

11～12月



★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 以前は遊び方が分からなかったのかあまり遊ばなかったが、年長児と遊ぶようになってから積極的に遊ぶようになり、立体製作も楽しむようになっている。
- ◆ 年長児に教えてもらってブロック遊びを発展させることで、遊び方が変わるだけでなく、年長児とのコミュニケーションも変わってきた。

【次の課題】

製作意欲が高まってきているため、ブロックだけでなく廃材などの素材をたくさん用意して、立体的な製作が出来るようにしていく。

実践1

6~7月

【子どもの姿】自由遊びの時間に何をしたら良いか分からず、遊び込めない。

【保育環境改善の工夫】自由遊びの中で作った作品の掲示方法を見直し、環境を整えた。

〈環境設定前〉



クラス全員の共有スペースとして作品を飾る場所を設定。



〈環境設定後〉



一人ずつの場所を区切り、自分で自由に作品を「掲示」「剥がす」が出来るようにした。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 自分だけの掲示スペースが出来た事で期待が高まり、自分から絵を描いたり、折り紙を折ったりして飾るようになった。
- ◆ 自分の作品が飾られ、保育士や友だちに認められる喜びが、遊びへの意欲に繋がった。
- ◆ 興味の幅は子どもそれぞれ違った。

【次の課題】

一人でじっくり取り組む遊びを充実させながらも、友だちと共通のイメージを持って一緒に遊び込める経験も出来る様にしていきたい。

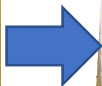
【子どもの姿】遊びへの興味の幅が違うので、一緒に遊び込むことが少ない。

【保育環境改善の工夫】遊びの素材、材料を充実しグループ遊びを広げる。

実践2

7~9月

〈環境設定前〉



〈環境設定後〉



BBQの装飾等、完成したものは次々部屋に装飾し、子ども達の目に入りやすいようにした。

子どもの意見から、クラスでBBQ遊びを行う事となった
→BBQコーナーを設置(関連する材料はこのコーナーから取って製作できるようにした)。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 少人数で行っていたBBQの取り組みが、徐々に周りを巻き込んでいった。クラス全員で活動を進めながら、年下の友だちを招待したいとの声も上がった。
- ◆ 遊びの様子が視界に入り、BBQという共通の楽しみが出来た為それぞれのイメージを伝え合い、一緒に遊び込むことが出来た。

【次の課題】

BBQ活動を楽しんでおり同年代で楽しさを共有することが出来たが、年下児の友達も一緒に楽しめる環境をより工夫していきたい。

実践3

10~11月

【子どもの姿】異年齢の友だちを意識しているが、一緒に遊ぶ遊びの幅が広がらない。
 【保育環境改善の工夫】乳児の友だちが楽しめることとして指人形という意見が上がり、指人形を製作した。

〈環境設定前〉

- ・クラスで行いたいことを話し合い取り入れていた。
- ・乳児クラスとの関わりが少なく、一緒に何をすると楽しんでもくれるかを思い浮かべることが難しかった。

乳児と交流するために製作した指人形



〈環境設定後〉

- ・乳児クラスとの活動の機会を増やし、乳児の友だちに興味が深まるようにした。
- ・朝の会に参加、一緒に散歩に行く等を経験し乳児の友だちについて知った。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ 乳児クラスの友達との関わりが増えたことで、一緒に楽しむ為の具体的なイメージが浮かび、自分の経験を基に喜んで貰う為のアイデアを出す子が増えた。
- ◆ 年下の友だちと過ごし、乳児クラスの活動を経験したことで、イメージがより具体的になり、自信を持って発言できるようになった。

【次の課題】

一人一人が発言し、沢山のアイデアが出てきたが、方向性の違う意見なども最大限取り入れられる工夫を子どもと一緒にしたい。

【子どもの姿】活動に対し、沢山の意見を出しているがまとめられないことがある。

【保育環境改善の工夫】子どもたちの声を聞き、主体的に遊べるきっかけ作りをする。

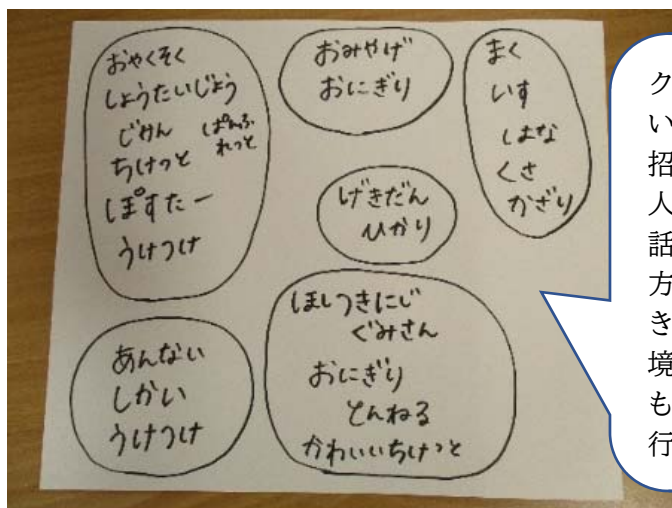
実践4

11~12月

〈環境設定前〉

子ども達が意見を次々出していき、その意見を保育者がまとめて子どもに伝える。

子ども同士で話し合い、出てきた意見を関連しているもの同士でまとめていった。



クラスで人形劇を行い、異年齢の友だちを招待することにした。人形劇に必要な物を話し合う際に様々な方向性の意見が出てきた為、話し合いの環境構成を見直し、子ども主体の話し合いが行えるようにした。

★子どもの変化と保育のポイント

- ◆ たくさん出てきた意見を自分達でジャンル分けしていく事で、それぞれの意見に対し肯定的に受け止めたり、認められて嬉しくなり、より意見を出していた。
- ◆ 今まで保育士が介入していたまとめを子どもたちが行う事で、自分達で行ったという達成感が増し、よりまとまった雰囲気で行っていた。

【次の課題】

子ども達がまとめた意見を形にしていく為、役割分担をしたり、リーダーを立てたりとより自主的に取り組める工夫をしていきたい。

考察：研究を振りかえって

◆ 環境を構成していく中で大事にしたこと

- ・ 連携
他の職員にも聞き、意見をたくさん取り入れた。
- ◆ 子どもの育ち
子ども達の育ちにつながるように環境を変えた。
- ◆ 子ども視点
子どもの姿をよく見て、子どもの視点で環境を考えた。
- ◆ 研究
環境を変えたあとの反省を次回に活かせるようにした。

■ 事例研究をしていく中で気づいたこと

- ・ 環境
同じ保育内容でも環境が変わるだけで、子どもの姿が変わり、全く違う学びを得ていた。
- ・ 見守ることの大切さ
子どもたち自身で成長できる力があるので、手をかけすぎず見守ることも大事だとわかった。

◆ これからの保育で活用したい内容

- ・ 子ども達の反応を見て、常に環境を変化させていく。少しの環境の変化でも、子ども達の新しい姿が見えてくる。
- ・ 子ども達の“今”に目を向けると、用意したいものが見つかる。
- ・ 色々な職員と意見交換をすることが大切。
- ・ 異年齢児と過ごす時間も大切。
- ・ 子どもを信じて見守る、またやってみる。
- ・ 認められる、任されることが、子ども達の成長に繋がる。
- ・ 子ども達が自分で使えるかどうか、使いやすさが大切。



7 資料

表1 保育環境実践記録

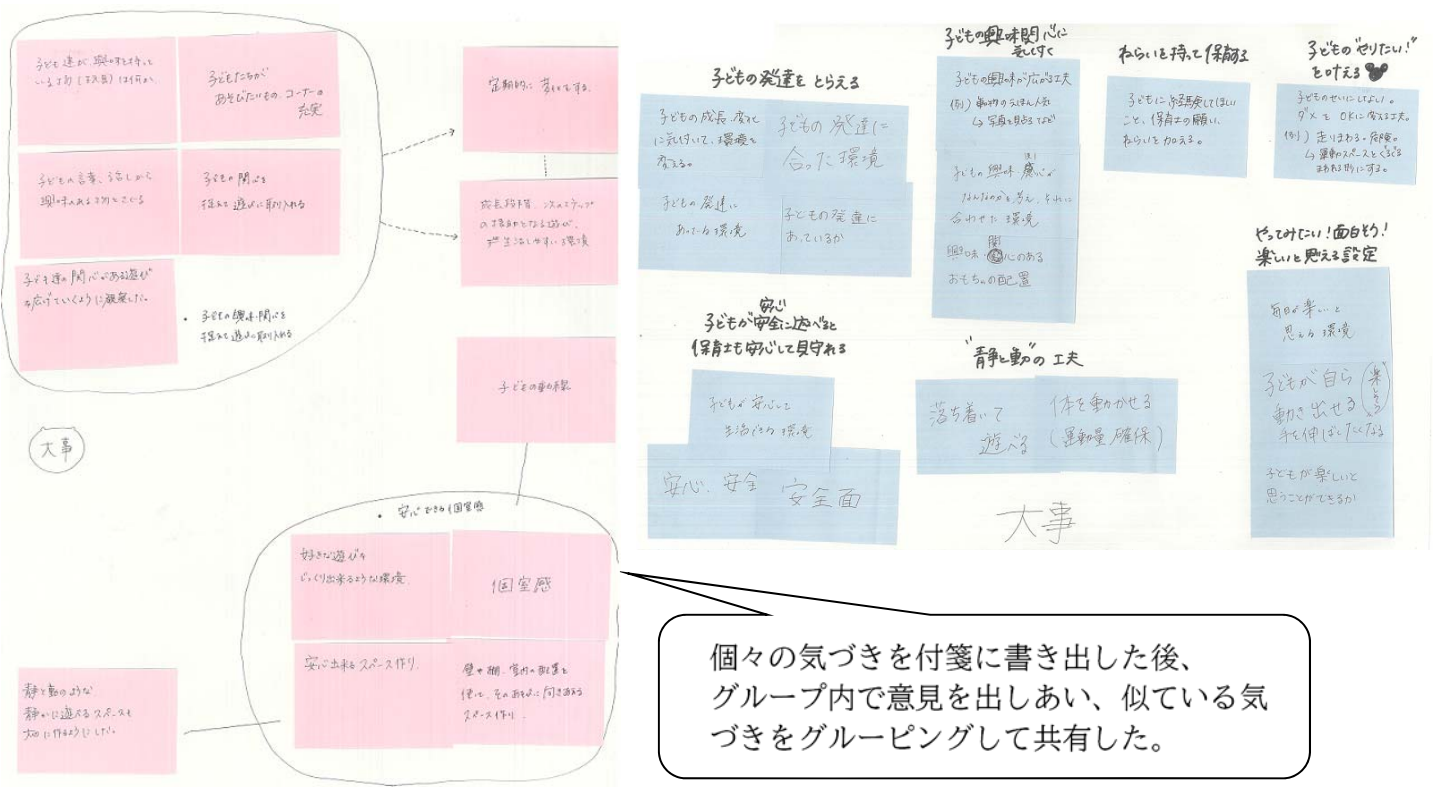
保育環境実践記録【グループ】

| 【テーマ】 | | | |
|------------------------------------|-----|-----|-----|
| 記録者(保育園名) | 保育園 | 記録日 | 月 日 |
| 対象児 (歳児 名) | | | |
| 研究の課題 (子どもの姿から) | | | |
| 実践内容 (環境を変える前後の様子、写真や見取り図など具体的に記載) | | | |
| ① | | | |
| 事例研究 | | | |
| ② | | | |
| 考察 | | | |
| ③ | | | |
| 次の研究課題 (プロジェクト内で意見交換する) | | | |
| ④ | | | |

【記録の方法】

- ・ 各自実践した事を①、②、③に記入して持参する。
- ・ 研究プロジェクトのグループワーク時間内に報告し、グループメンバーの意見も踏まえ④を記入。
- ・ ④に基づいて次回の記録を作成する

図1 付箋ワークの記録



8 保育の質の向上プロジェクト 参加者の感想から

- ◇ 日々の業務に追われてしまう中で流されてしまいがちだが、今回参加したことで楽しみながら保育環境を変えていくことができました。
- ◇ 保育士が楽しんでいると子どもも楽しいということがわかったのでこれからは周りの職員にも伝えて、保育環境改善について伝えていきたいです。
- ◇ 環境を変えると子どもたちの遊び方が変わり、保育士の声のかけ方も変わっていくことがわかりました。
- ◇ 今年度から私立園も加わり様々な環境についての話を聞く機会が増え、交流をもつことができよかったです。
- ◇ 子ども主体にする目線を大切にすることが継続して実践していく中で理解することができました。
- ◇ 同じ年齢のチームで一年間取り組んだことで、保育のことで様々な相談ができ心強かったです。また迷ったときに新しい方向性や視点を提案してもらうことで次の取り組みについての意欲がわきました。
- ◇ チームで話していく中で、いろいろなアイデアを貰って環境について取り組むことができました。クラスでたくさん話し合うことが大切だと感じました。
- ◇ 環境が変わることで子どもたちの遊びが大きく変わっていくことを一年間取り組む中で分かりました。普段の業務を優先してしまい、環境を後回しにしてしまうことが多かったですが、これからは見直していきたいと思います。
- ◇ 大きく何かを変えなくても、とりあえず小さいことからでも変えていくことがすごく大事だと感じました。そして変えるだけではなくそこからどうなったかを考察して改善していくことが大切だと再確認できました。
- ◇ 自園で環境について話すときは大きく物を入れ替えたりすることと固定概念で思っていたのですが、一つのコーナーを変えるだけでも子どもの動きや、遊び方が変わることがわかりました。好きな遊びを選んでじっくり楽しめるコーナー作りというテーマでやっていけて良かったと感じました。
- ◇ ひとりだけではここまで環境を考えられなかったと思います。グループで一緒に考えていけたことが大きな学びになりました。
- ◇ いろいろな保育園が集まって、ひとつのテーマで話し合う機会に恵まれて勉強になりました。保育環境ということで写真や見取り図などで環境について話をしていきましたが、グループ内の保育園同士で交流して実際に保育園の見学に行くなど実際の保育を見る機会があればまた違ったディスカッションもできたと思いました。

9 おわりに ～令和5（2023）年度の研究について～

港区「保育の質向上のためのプロジェクト」は、保育の場における中堅層の資質・能力の向上に資することを目標に、令和4（2022）年4月にスタートした。この年は、「保育における言葉」を研究テーマとし参加者は区内の公立園のみ対象だったが、2年目から公私の両方になった。

本年度の研究テーマは、参加者の意見を募った上で検討し、「保育の環境」に取り組むことになった。

○研究の方法

この研究プロジェクトにおいて、方法が重要である。プロジェクトは中堅の保育士を対象としており、既に保育士としての専門知識・技術を備えた現場経験が豊富であり、現場の中核を担っている、あるいはこれからその立場につく人材である。そのような人材には現場の中核となって保育の質向上に寄与する役割が期待される。

そのためには、保育を見直す力、課題を見つけ出す力、職場で協働して具体的に改善に取り組む力、互いに意見を出し合い力を合わせて課題に取り組む力を伸ばす必要がある。そのため次のような方法を採用し、様々な経験をして力の向上が図れるようにした。

- ・主体性を伸ばすために、参加者が主体的に参加する機会づくりをする。
- ・担当する年齢毎に小グループ編成をし、各グループで子どもの姿から環境改善を探り、課題を見つけ、具体的な解決策を考え実践する。実践を振り返って、子どもへの気づきを含む事例の記録を作成し、研究プロジェクトのグループ内で発表、ディスカッションを行い、次の研究につなげる。

当初こうした方法に戸惑う姿も見られたが、参加を重ねるにつれて主体的に熱心に話し合う姿がごく自然に見られるようになっていったことで、担当者としては手応え感、安堵感を感じた。

日々多忙な保育士の場合配慮すべきことがあると思う。計画の段階から過度な負担にならないように配慮することである。この種の研究期間として、約1年間は長い方で、恵まれた時間である。近年益々保育の現場は多忙になってきている。保育を担いながら研究に時間を割かねばならないこと、無理をしすぎると負担感、疲労感が大きくなり、関心・意欲、達成感、自信などが育っていかない。時間を空けている間の同僚への申し訳なさもある。故に計画段階ではストレスを軽減するように配慮をしたが、何かに取り組むという経験はある程度のストレスは当然のことで、どの程度なら妥当か勘案したつもりである。

○本年度の研究プロジェクトー保育の環境改善をテーマとしてー

保育の環境は、保育における「環境を通して行う保育」や「環境構成」という観点から、保育実践にとって非常に重要なテーマである。子どもの心身の発達につながるテーマである。

幼い子どもは、自由な気持ちで身体の機能を使って環境に触れるなかでどうかかわるかを感じとったり、環境から気づいたり、という学び方の特性を持っている。子どもは動きながら学

ぶ。やってみる、力を発揮できると、嬉しいという感情が生まれる。見て、触れて、挑戦してみるという直接的体験から子どもの新しい可能性を見せてくれる。幼い子どもにとって環境は重要である。こうしたことを具体的に見直していく機会になって欲しいというのが、環境をテーマとした願いである。

グループ研究では、子どもの姿を通して環境の課題が見出され、改善案が出された。いずれもこれからの保育の環境に即役立つ内容であった。例えば、スペースが狭い環境、という課題を持つ研究では、異年齢同士の子ども同士がぶつかる、年齢の小さい子どもが遊びこめない等など、子どもの姿から改善の具体案が出された。改善された環境では、子ども達の主体的に遊ぶ姿が見られ、少しでも環境を変えることで子どもの姿が変わるという実感が得られていった。

本年度は、事例発表とグループディスカッション以外に、新たに 2 つの方法が採り入れられた。担当する事務局からグループワークに、付箋ワークショップと PC 等の導入の提案があった。小さい付箋に短く意見やアイデアを書き、全員が 1 つの大きめの用紙に貼るという視覚的で作業的な方法である。PC 等情報機器は時代のツールとして保育の現場でも活用が求められており、慣れる機会になると考えた。

研究が研究で終わってしまわないで、現場の保育の質向上に、保育の質向上に貢献できるような資質・能力を伸ばすとともに、実践研究の面白さ、子どもや保育の面白さを改めて感じてもらえたと自負している。

○本年度の成果—参加者のアンケートから

研究プロジェクトの最終回では、簡単なアンケートをとらせていただいた。その中からいくつかの感想を紹介して本稿のまとめに、本年度の取組の成果報告としたい。

方法について、多くの方から良かったと評価されたのは、小グループによるディスカッションである。代表的な意見は「なかなか他園の先生方とディスカッションする機会がないので非常に有意義な時間だった。同じ年齢のクラスを持つ先生方とのグループだったので悩んでいることが似ていたり、遊びについての深い話ができたりしてとてもよかったです」。

環境というテーマについて取り組んだことについて、多くの方が環境の大切さがわかった、環境の大切さについて多くの気づきを得たとしている。代表的な意見は、「環境が子どもに与える影響が大きいことを改めて感じました。子どもの姿が変わると自分の意識も変わり、意識が変わると、より保育の楽しさを色々な面から感じられるのだと実感しました。保育は子どもの姿を基に作っていくということを今後も大切にしていきます。」

圧倒的多数の参加者から、研究プロジェクトに参加し、有意義な時間が与えられた、これからの保育にとってよい学びがあった、力がついた等々成果があったという意見があった。他方で、困難を感じたのは事例をまとめること、仕事以外に時間をとるのが困難、仕事の後でやるので大変だったことが挙げられていた。観察事例は用紙 A 4、1 枚の表形式にし、着眼点ごとにシンプルにまとめる、写真/イラストでイメージしやすくする等、工夫したつもりである。

(文責：阿部真美子)

研究アドバイザー

山梨県立大学名誉教授、聖徳大学名誉教授 阿部 真美子

保育の研究プロジェクトメンバー

| 保育園名 | 保育園名 |
|-----------------|--------|
| 麻布保育園 | 西麻布保育園 |
| 白金保育園 | 芝保育園 |
| 青山保育園 | 高輪保育園 |
| こうなん保育園 | 本村保育園 |
| 飯倉保育園 | 赤坂保育園 |
| 南麻布保育園 | 芝公園保育園 |
| 伊皿子坂保育園 | 台場保育園 |
| 南青山保育園 | 神応保育園 |
| sakura 保育園六本木 | 元麻布保育園 |
| ミアヘルサ保育園ひびき白金高輪 | 東麻布保育園 |
| 高輪さつき保育園 | 芝浦橋保育室 |
| ゆらりん港南保育園 | 青南保育室 |
| ゆらりんはあと保育園 | |

園名順不同

事務局

港区子ども家庭支援部子ども政策課子ども施設指導係



令和5年度港区保育の質の向上のための研究プロジェクト報告書
令和6年3月

事務局 港区子ども家庭支援部子ども政策課子ども施設指導係